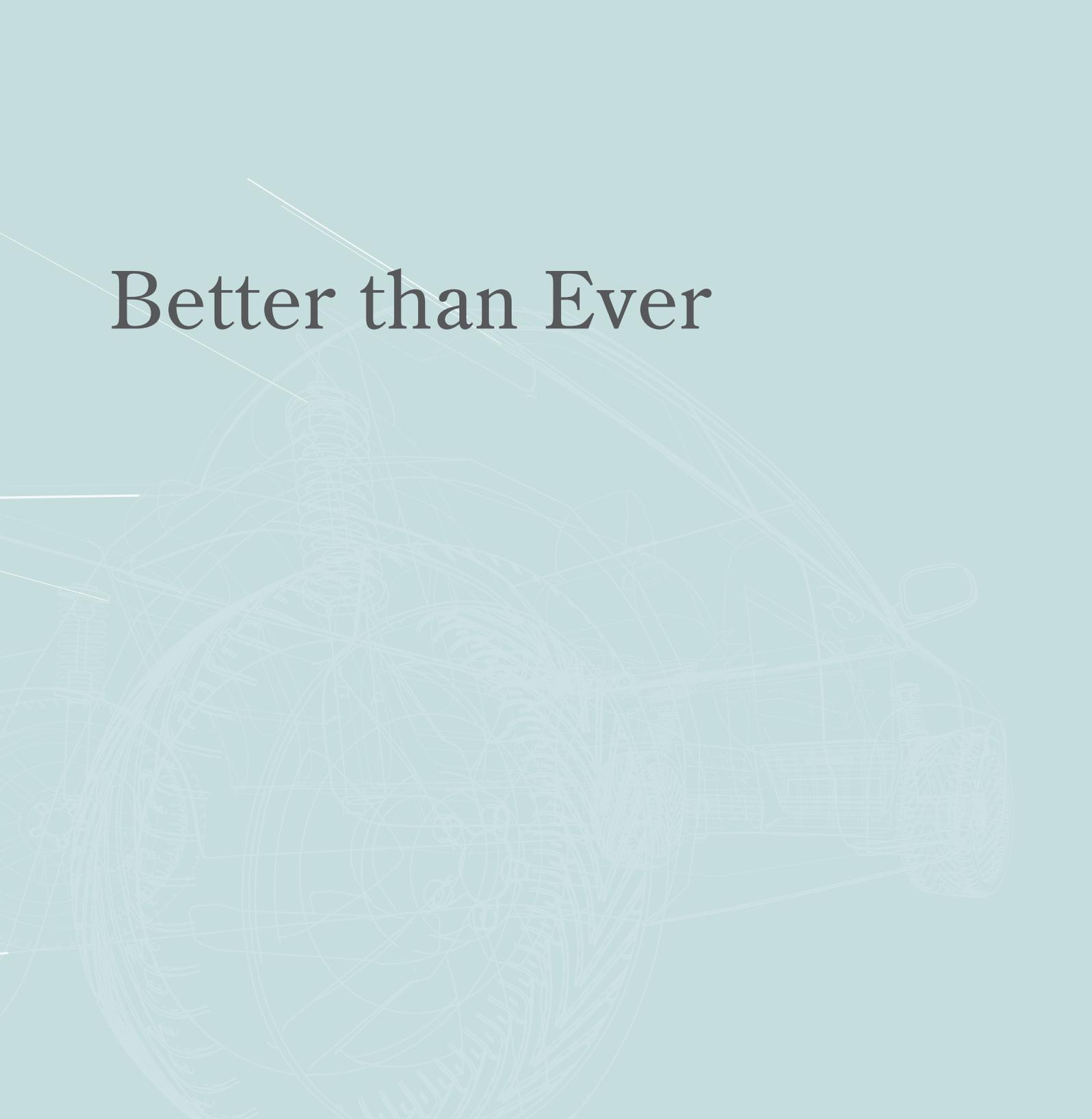


Better than Ever

CSR Report 2022

エフテック CSR報告書

Better than Ever



編集方針

2021年度は、エフテックグループにとって、新型コロナウイルス感染症の継続や半導体不足による生産変動、ロシア・ウクライナ情勢や円安による原材料やエネルギー価格の高騰等、外部環境変化の影響を大きく受けた1年となりました。現在においても様々な社会環境の変化が続いており、当社グループの柔軟性、持続可能性における真価と進化が試される日々が続いています。

これまで当社グループは、環境活動や社会貢献活動を本報告書により、10年以上にわたり報告してきました。最近ではサステナビリティに係る情報開示への社会的要請が高まっていることから、当社グループにおいても、財務情報の概要、サステナビリティへの取り組み及びTCFD*提言に則した対応等、丁寧に情報開示を行うよう努めています。本報告書が、ステークホルダーの皆様にとって当社グループを理解するうえでの一助になれば幸いです。

なお、本報告書作成に際しては、環境への配慮及び気候変動リスクについてはTCFD提言、社会的責任については「ISO26000」などを参考にしています。また、本報告書中、エフテックグループについては、エフテックグループないし当社グループ、株式会社エフテックについては、エフテックないし当社と表記しています。

※ 気候関連財務情報開示タスクフォース

CONTENTS



報告対象期間

2021年度(2021年4月~2022年3月)の実績と一部期間外の内容を含みます。

Top Message

- 3 TOP MESSAGE
- 6 企業活動概要

エフテックグループとは

- 7 エフテックグループの歩み
- 9 グループ・会社概要
- 11 財務データ

ガバナンス(Governance)

- 13 経営理念とCSR
- 14 CSR体制
- 15 ガバナンス・コンプライアンス・リスクマネジメント
- 17 役員紹介
- 19 改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応

社会(Social)

- 21 働きやすい環境づくり
- 23 **VOICE** 柔軟な働き方への取り組み
- 24 労働・安全衛生の取り組み
- 25 品質改善の取り組み
- 26 株主・投資家とのかかわり
- 27 地域社会とのかかわり

環境(Environment)

- 29 脱炭素社会の実現
- 30 TCFD提言に基づく情報開示
- 34 2030年グローバル環境目標 推進実績
- 35 第14次中期計画
- 36 2021年度 環境・エネルギー計画(国内)
- 37 マテリアルフロー(2021年度実績)
- 38 2021年度 エフテック環境会計
- 39 サプライチェーンマネジメント
- 40 **TOPICS** 2021年度 地域環境会議の開催
- 41 環境に配慮した製品・技術
- 42 **VOICE** 社会や環境へ貢献できる開発

グローバルでの取り組み

- 43 日本
- 45 北米
- 47 中国・アジア

将来の予測・計画・目標について

本報告書は、記載時点での情報に基づいた予測であり、確定的なものではありません。そのため将来の事業活動の結果が、本報告書に記載した予測とは異なる場合があります。



F-tech inc.



代表取締役社長

福田 祐一

Top Message

更なる価値向上に取り組んでいます。

外部環境変化

2022年度までの第14次中期経営計画3年間では、新型コロナウイルス感染症、半導体の供給不足、上海のロックダウン、ウクライナ情勢など大きな外部環境変化があり、自動車部品業界も甚大な影響を受けてきました。エフテックグループが専門性を有する足廻り製品は、動力源がガソリンエンジンからモーターバッテリーというEVに代わっても車体の基本骨格をなす重要な構成部品であることに変わりありません。EVは車体構造が変わり、求められる要件も変化しますので、足廻りも変化に合わせ最適な仕様に仕上げていく必要があります。常に軽量化とコスト競争力の向上を求め、同時に衝突安全性と操縦安定性も考慮しています。足廻りは自動車の基本的な機能をつかさどる役割を担い、重要保安部品と位置付けられ、常に安全性が求められています。

人材重視

働き方改革では、フレックスタイム制の適用部門を拡大し、効率的な勤務体制の確立に取り組んできました。キャリア形成においても、会社から社員への一方通行の施策を実施するのではなく、社員自らが考え、キャリアを選択する仕組みを制度化しています。例えば、海外駐在員の公募制度導入や定年を迎えられた経験・ノウハウが豊富な社員に技術の伝承を行ってもらうため、「匠」制度を創設し活躍してもらっています。ワークライフバランスの取り組みでは、全一般社員が有給休暇を翌年へ繰り越さない文化が根付いており、繰り越しゼロの達成は既に23年間続いています。ダイバーシティに関しては、2030年を目標に全管理職の女性比率を10%にしたいと考えています。単に女性社員に活躍を促すだけではなく、女性が活躍するために会社として何が必要で、何を整備していかなければいけないのか、女性社員とのタウンミーティングを開催し、生の声を聞き環境整備を進めていきます。今後の取り組みとして、女性社員で構成するワーキングチームを発足させ、自ら「女性活躍」の施策を立案し、実行に移す取り組みも推進します。また、グローバル人材という点では、海外出身者や海外に留学している日本人を対象に毎年採用

活動をしています。当社は世界規模で事業活動を展開しており、日本から海外グループ拠点への駐在はもちろんのこと、今後は海外拠点から日本への移籍や拠点間異動も検討するなど、グループ内の人材流動化を積極的に進めていくことも考えています。

ガバナンス

ガバナンスに関しては、取締役会の実効性評価を毎年実施し、取締役会運営の継続的改善に繋げています。2021年より任意の指名・報酬委員会を設置し、取締役、執行役員等の選任、報酬の設定基準について議論し、透明性、客観性を高めています。取締役の知識、経験、能力などの多様性については、株主総会招集通知及び本報告書において「スキルマトリクス」を用い開示しています。また、当社グループ全体のガバナンス意識の向上へは、日本の全社員に配布している「わたしたちの行動指針」の翻訳版を作成し、グループ全拠点へ展開することで、行動指針の共有化を図っています。今後の取り組みとしては、従業員持株会の活性化施策を検討することで、より多くの社員に加入を促し、経営参画意識、オーナーシップの向上を図っていきたいと考えています。

社会貢献

新しい取り組みとしては、当社の主要取引金融機関と「フードドライブ 合同贈呈式」を開催し、地元の久喜市、加須市の「こども食堂」7団体へ食品を寄付しました。コロナ禍で大きな生活不安を感じているご家庭や、多くの制約を受けつつも頑張っている日々を過ごす子供たちへのささやかな支援ができました。また、社員のフードロスへの問題意識を醸成する第一歩にもなりました。環境美化清掃活動の取り組みでは、久喜事業所が備前堀川の清掃、亀山事業所は亀山市所有の緑地帯の清掃、芳賀テクノカルセンターは工業団地の清掃と事業所毎に継続的に実施しています。今後も社会の諸問題への解決に向け、できる限り社員と共に活動を続けてまいります。

環境取り組み

政府の新たな目標である「2050年カーボンニュートラル(CN)」の実現に向け、当社はCN推進CFT(クロスファンクショナルチーム)を発足させる予定です。各部門から選出されたメンバーから成る部門横断チームにて、2050年までにカーボンニュートラルを実現すべく「ロードマップ」を作成し、次期中期経営計画に反映していきます。カーボンニュートラルと一言で言っても、日々の省エネ活動だけで達成できるものではなく、エフテックグループのモノづくりに係る全てのノウハウと新たなアイデアを結集する必要があります。製造工程の見直し、製造設備の更新、使用電力の調達源の切り替えなど多くの検討が必要となります。時間軸の長い取り組みであり、どのタイミングで何を実施するのか、大きな枠組みを設定し、現役世代から次世代へとバトンを繋ぎながら、目標達成に向け取り組んでまいります。



企業価値向上

エフテックは「モノづくり企業」として創業75年を迎えました。その間、モノづくりに誠実に取り組み、多くのお客様からビジネスの機会を得てきました。そして、製品の品質、コスト、納期の基本要件をしっかりと満たす体制をワールドワイドで整備してきました。当社の強みの一つは、製品開発から量産までを社内で完結する「一貫体制」を備えていることです。開発プロセスやニーズは各お客様で異なるため、個々にどのようなニーズを持っているのかをしっかりと把握し製品開発を行い、世界のどの拠点であっても高品質な製品を高効率に生産し、お客

様にオンタイムで供給してきました。今後もエフテックグループの全社員は「モノづくり企業」としての原点を胸に刻み、日々努力を重ね、お客様が求める価値を世界中で提供してまいります。

今後のビジョン

エフテックグループは「足廻り機能領域」の専門メーカーとして「世界ナンバーワン」を目指すというビジョンを掲げています。「足廻り機能領域」とはサブフレーム、サスペンション、ペダルの3つの製品群であり、エフテックが四輪事業に進出して以来、その専門性を磨き続けてきた領域です。エフテックが目指す「世界ナンバーワン」とは、売上規模やシェアではなく、「モノづくりの本質」追求です。エフテックが定義する「モノづくりの本質」とは、『高品質な製品を安全に、高効率、最小エネルギーで生産し、企業努力をしっかりと反映したコストレベルでお客様にオンタイムで供給する。』ことです。エフテックグループの全社員がこの定義を共有し、製造部門のみならず、間接部門であっても、全員がこの本質追求にかかわっていることを自覚し、自分が従事する分野において、誰にも負けない「ナンバーワン」だと自信を持って言えるまで追求し続けることです。

過去数年間、新型コロナウイルス感染症の影響により社会環境が大きく変化しました。これに加え直近では、国家間の紛争や政治、貿易摩擦など国際情勢は非常に不安定な局面にあります。社会環境が大きく変わり、国際情勢が混沌とし、私たちの事業環境も大きく変化する中でも、エフテックグループがどのような想いを持って企業活動に取り組み、社会的責任を果たしているかを全てのステークホルダーの皆様に知っていただく必要があります。先行きの不透明感は依然拭い去れませんが、こうした状況下にあっても、私たちは未来志向で事業活動のみならず、ESG活動にもしっかりと向き合い活動を育んでいます。私たちが創業以来モノづくりに誠実に取り組んできたように、ESG活動へも同様に取り組み、将来へと繋いでいく責任があります。今回発行した「CSR報告書2022」を通して、私たちエフテックグループの想いと活動を確認いただければ幸いです。

企業活動概要

全拠点の財務健全化及び環境課題解決を 着実に実行します。

財務指標

売上高

新型コロナウイルス感染症からは回復しつつあるものの、半導体供給不足が継続しており、全体で前期比4.5%増加の191,892百万円に留まりました。

営業利益

前期比62.8%減少で11億円となりました。日本の商品売上、技術収入売上(ロイヤルティ)の増加及び経費削減効果はあったものの、新型コロナウイルス感染症影響の継続に加え、半導体供給不足による連結売上高減少の影響が大きく、前期比19億円の減益となりました。

有利子負債残高

2020年度は、新型コロナウイルス感染症影響への備えとしての借入は生じましたが、前年度比で着実に減少しました。2021年度は、海外における新規大型投資案件等のための借入れを行い、650億円弱となりました。

有利子負債依存度

総資産残高と有利子負債残高の継続的な管理強化により、2017年度から連年30%台を保ってきたものの、2021年度は、新規大型設備投資等により、2016年度以来の40%台となっております。

環境指標

CO₂排出量

目標: 2017年度 CO₂排出原単位比5.6%削減

2021年度実績は原単位0.371t-CO₂/売上百万円(2017年度比▲16.3%)となりました。

水資源使用量

目標: 2017年度 水資源使用量原単位比4.4%削減

2021年度実績は原単位2.94m³/売上百万円(2017年度比▲5.6%)となりました。

廃棄物排出量

目標: 2017年度 廃棄物排出量原単位比4.0%削減

2021年度実績は原単位0.019ton/売上百万円(2017年度比▲22.6%)となりました。

詳細は本報告書P.34,35にて説明しております。また、昨年度の記載内容に一部変化点があり、内容を一部見直しております。

	項目	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
財務指標	売上高	百万円	226,060	235,361	218,712	183,647	191,892
	営業利益	百万円	6,856	6,580	4,088	3,072	1,142
	営業利益率	%	3.0	2.8	1.9	1.7	0.6
	ROE	%	12.8	6.9	0.8	▲2.9	0.5
	有利子負債残高	百万円	59,510	46,220	51,342	49,565	64,867
	有利子負債依存度	%	39.5	33.7	38.3	36.3	40.3
環境指標	CO ₂ 排出量(原単位)	t-CO ₂ /売上百万円	0.443	0.432	0.415	0.396	0.371
	水資源使用量(原単位)	m ³ /売上百万円	3.12	3.08	3.14	3.48	2.94
	廃棄物排出量(原単位)	ton/売上百万円	0.025	0.020	0.023	0.023	0.019

小さな町工場からグローバルカンパニーへ

創業期

1947~1964

- 1947年 7月 創業者・福田治六が雑貨玩具部品のプレス加工により、埼玉県草加市で福田製作所を創業
- 1959年 10月 本田技研工業株式会社の自動二輪車の部品加工を開始
- 1961年 7月 Honda、マン島レースで優勝。部品供給において本田宗一郎氏から感謝状授与
- 1964年 5月 福田プレス工業株式会社に社名変更



創業当時

四輪事業創業期

1965~1989

- 1965年 1月 四輪自動車機能部品開発・製造
- 1967年 5月 三重県亀山市に亀山工場(現 亀山和田工場)を新設
- 1978年 12月 埼玉県久喜市に本社及び工場(現 久喜事業所)を移転
- 1983年 11月 現 フクダエンジニアリング株式会社を設立
- 1986年 10月 グループ初の海外拠点として、カナダ オンタリオ州にF&P Mfg., Inc.設立
- 1988年 12月 株式会社エフテックに社名変更



本田宗一郎氏からの感謝状

得意先・事業地域 多様化期

1990~1999

- 1990年 7月 栃木県芳賀郡に現 芳賀テクニカルセンターを新設
- 1991年 5月 三菱自動車工業株式会社と取引開始
- 1993年 7月 米国オハイオ州にF&P America Mfg., Inc.設立
- 1994年 1月 熊本県山鹿市に株式会社九州エフテックを設立
- 5月 アジア地域初の拠点として、フィリピン ラグナ州にF-TECH PHILIPPINES, MFG., INC.設立
- 1995年 4月 日産車体株式会社と取引開始
- 1996年 9月 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 1997年 4月 カナダ オンタリオ州に現 DYNA-MIG, A Division of F&P Mfg., Inc.設立
- 1998年 3月 エフテックが「ISO9002」認証取得
- 1999年 2月 ダイハツ工業株式会社と取引開始
- 4月 F&P America Mfg., Inc. が「ISO9002」認証取得
- 11月 国内全事業所が「ISO14001」認証取得



当社初の海外拠点 F&P Mfg., Inc.



現社名へ変更当時

拡大期 I

2000~2010

- 2000年 6月 日産自動車株式会社と取引開始
- 10月 米国ジョージア州に現 F&P Georgia,A division of F&P America Mfg., Inc.設立
- 2001年 1月 東京証券取引所市場第二部上場
- 3月 Toyota Motor Manufacturing North America, Inc.と取引開始
- 4月 スズキ株式会社と取引開始
- 6月 F.E.G. DE QUERETARO S.A. DE C.V.設立
- 2002年 1月 中国地域初の拠点として、偉福科技工業(中山)有限公司を設立
- 11月 株式会社九州エフテックが「ISO9001」認証取得
- 2003年 4月 米国 オハイオ州にF.TECH R&D NORTH AMERICA INC. 設立
- 2004年 11月 中国 湖北省に偉福科技工業(武漢)有限公司を設立
- 2006年 3月 タイ国 アユタヤ県にF-TECH MFG. (THAILAND) LTD.設立
- 9月 東京証券取引所市場第一部上場
- 2007年 11月 株式会社リテラを子会社化
- 12月 中国 山東省にフクダエンジニアリング株式会社の子会社、現煙台福研模具有限公司を設立
- 2008年 7月 フィリピン ラグナ州にF.tech R&D Philippines Inc.設立



東京証券取引所市場第一部上場当時



F&P MFG DE MEXICO S.A. DE CV.

拡大期 II

2011~現在

- 2011年 12月 中国 広東省に偉福(広州) 汽車技術開発有限公司を設立
- 2012年 6月 メキシコ グアナファト州にF&P MFG DE MEXICO S.A. DE CV.設立
- 12月 東京証券取引所貸借銘柄に選定
- 2013年 2月 インドネシア カラワン県にPT.F.TECH INDONESIA設立
- 8月 米国 ミシガン州にMichigan/R&D NA Branch Office設立
- 10月 亀山事業所が「ISO50001」の認証を取得
- 2016年 6月 現 公益財団法人エフテック奨学財団を設立
- 2018年 9月 インド グルگرامにF-Tech Automotive Components Private Limited.設立
- 2020年 11月 インド グジャラート州のVEE GEE Auto Components Private Limited.に出資
- 2021年 3月 トヨタ自動車株式会社と取引開始
- 12月 取締役会の任意の諮問機関として、指名・報酬委員会を設置
- 2022年 4月 東京証券取引所市場第一部からプライム市場へ移行
- 5月 インド ウッタルプラディッシュ州のIndia Steel Summit Private Limitedを子会社化



東京証券取引所市場第一部からプライム市場へ移行



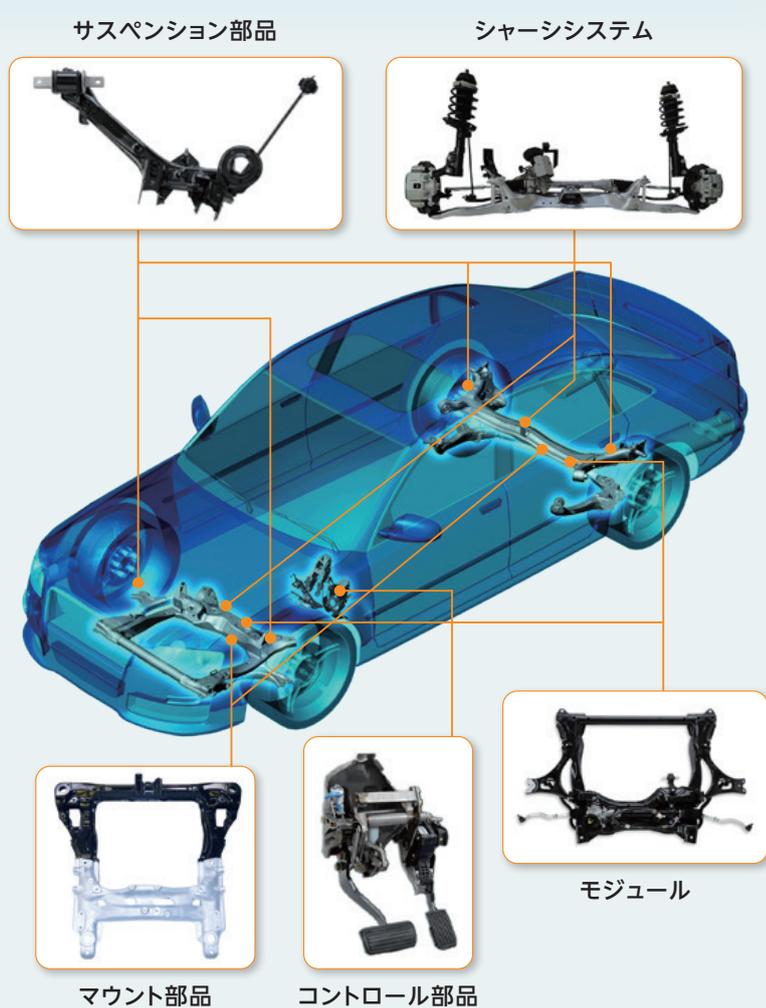
2022年3月 India Steel Summit Private Limited子会社化 調印式にて

「足廻り領域の専門メーカーとして世界NO.1」へ

Our Products

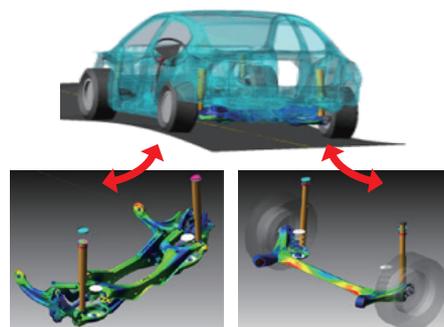
EV化にも対応する足廻り専門メーカーのトップランナー

サスペンションアーム、サブフレームやペダルなど、自動車の重要保安部品である足廻り部品を、高い設計技術力と独自の一貫加工体制で製造。自動車メーカーに求められる高い品質を確保しつつ、強度・耐久性と軽量化を同時に成立させています。



■ 設計技術力

独自の解析技術を駆使して、走行時の足廻りなど製品性能予測に基づいた開発を推進しています。



■ 加工技術

ハイドロフォーミング、FSW（摩擦攪拌接合）、超精密塑性加工技術FUT-1*など、独自の加工技術を開発しています。

*令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰・創意工夫功労賞受賞



会社概要

会社名	株式会社エフテック	代表者	代表取締役社長 福田祐一
本社所在地	埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地	従業員(連結)	7,571人
創立	1947年7月1日	事業内容	自動車部品及びそれに伴う金型、機械器具等の開発・製造・販売
資本金	67億9037万円		

主要取引先

本田技研工業株式会社
 General Motors Company
 日産自動車株式会社
 株式会社本田技術研究所
 日産車体株式会社
 三菱自動車工業株式会社
 スズキ株式会社
 トヨタ自動車株式会社 他

Global Network

(2022年3月31日現在)

世界9か国、13生産拠点、8研究・技術開発拠点

生産拠点を展開するだけでなく、各地域に開発拠点を設置して顧客ニーズへの即応体制を整備。品質・開発・調達・環境などあらゆる面で情報共有を進め、グループ全体のレベルアップを図っています。



- …生産拠点 日本(2拠点) 北米(6拠点) 中国(2拠点) アジア(3拠点)
- …研究・技術開発、営業拠点 日本(2拠点) 北米(2拠点) 中国(2拠点) アジア(2拠点)

国内事業所

- 本社・久喜事業所 [埼玉県久喜市]
- 亀山事業所 [三重県亀山市]
- 設備センター [埼玉県加須市]
- 芳賀テクニカルセンター [栃木県芳賀郡芳賀町]

国内子会社

- フクダエンジニアリング株式会社 [埼玉県加須市] (FEG)
- 株式会社九州エフテック [熊本県山鹿市] (QFT)
- 株式会社リテラ [埼玉県秩父郡小鹿野町]

国内関連会社(持分法適用会社)

- 株式会社城南製作所 [長野県上田市]
- 株式会社城南九州製作所 [福岡県直方市]

海外関係会社

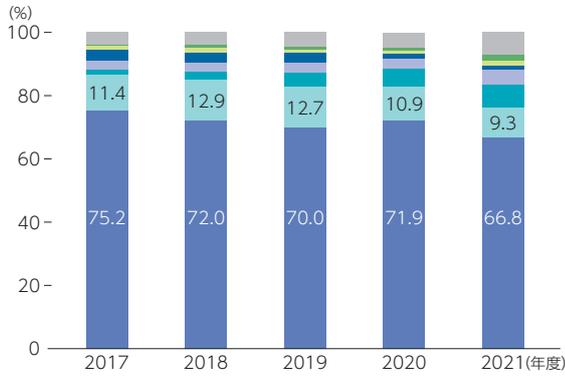
- F&P Mfg., Inc. [カナダ オンタリオ州] (F&P)
- DYNA-MIG, A Division of F&P Mfg., Inc. [カナダ オンタリオ州] (DM)
- F&P America Mfg., Inc. [アメリカ オハイオ州] (FPA)
- F&P Georgia, A division of F&P America Mfg., Inc. [アメリカ ジョージア州] (FPG)
- F.TECH R&D NORTH AMERICA INC. [アメリカ オハイオ州] (RDNA)
- Michigan/ R&D NA Branch Office [アメリカ ミシガン州]
- F.E.G. DE QUERETARO S.A. DE C.V. [メキシコ ケレタロ州] (FEGQ)
- F&P MFG DE MEXICO S.A. DE CV. [メキシコ グアナファト州] (FPMX)
- F-TECH PHILIPPINES, MFG., INC. [フィリピン ラグナ州] (FPMI)
- F.tech R & D Philippines Inc. [フィリピン ラグナ

- 州] (FRDP)
- F-TECH MFG. (THAILAND) LTD. [タイ アユタヤ県] (FMTL)
- PT. F.TECH INDONESIA [インドネシア カラワン県] (FTI)
- F-Tech Automotive Components Private Limited. [インド ハリヤナ州] (FTAC)
- 偉福科技工業(中山)有限公司 [中国 広東省] (FTZ)
- 偉福科技工業(武漢)有限公司 [中国 湖北省] (FTW)
- 煙台福研模具有限公司 [中国 山東省] (FEGY)
- 偉福(広州)汽車技術開発有限公司 [中国 広州市] (FRDCH)

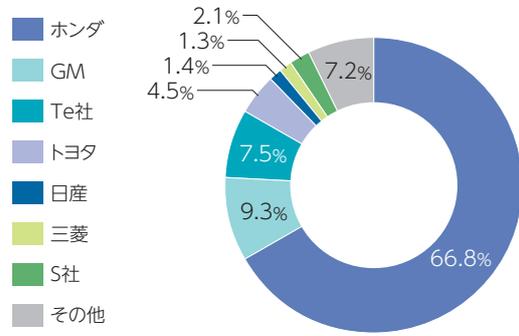
〈持分法適用会社〉

- Johan America, Inc.
- Johan De Mexico, S.A.de C.V.
- Johan F.tech (Thailand) LTD.
- VEE GEE Auto Components Private Limited.

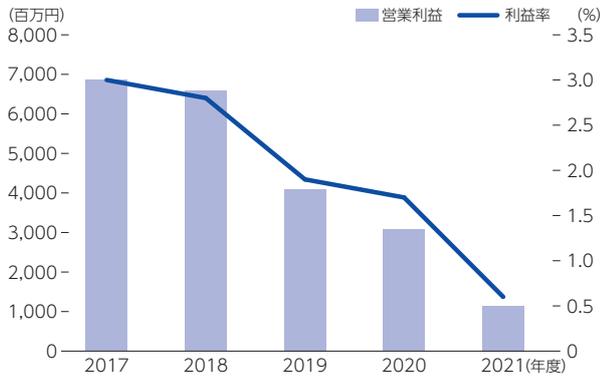
得意先別売上高シェア



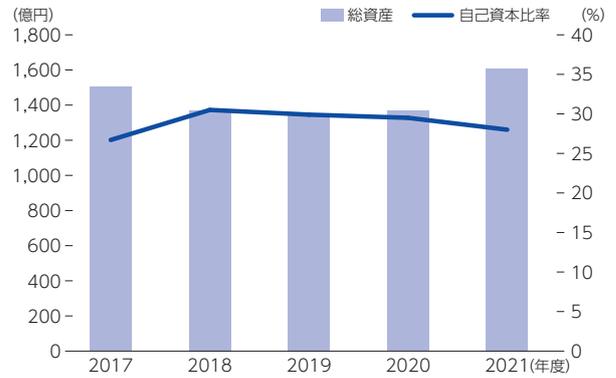
得意先別売上高シェア 2021年度詳細



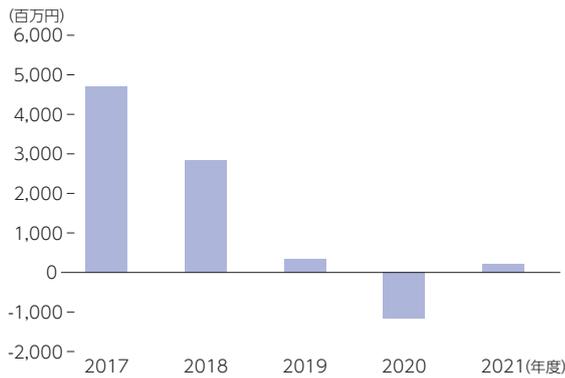
営業利益/利益率



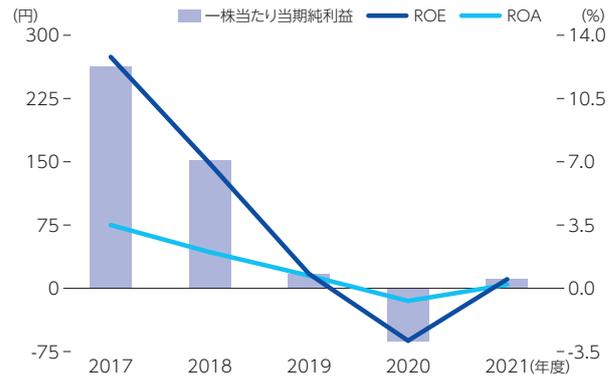
総資産/自己資本比率



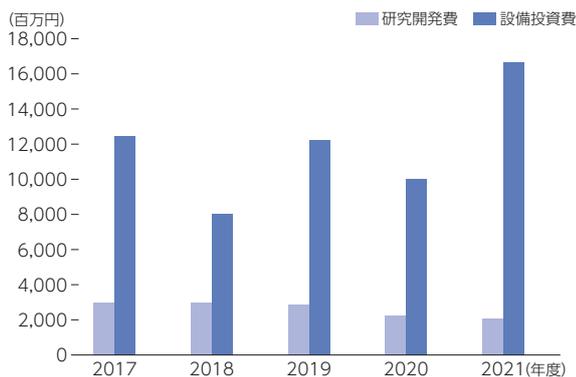
当期純利益又は当期純損失



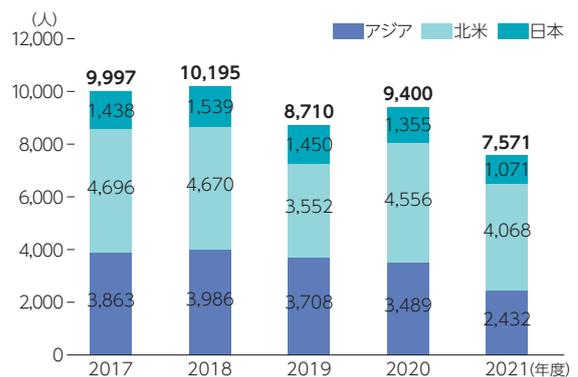
ROE・ROA/一株当たり当期純利益



研究開発費/設備投資費



地域セグメント別従業員数



ガバナンス

エフテックグループは、
多岐にわたるステークホルダーを重視する経営を行い、
会社の持続性と長期的な株主価値の最大化を目指します。
また、「わたしたちの行動指針」を作成し、
グループ全拠点へ展開することで行動指針の
共有化を図っています。

F-TECH CSR REPORT 2022

Governance

社 是

わたしたちは世界的視野に立ち、高い志と誠をもって価値を創造し、
国家社会に貢献すると共に豊かな未来を築く事に全力を尽くす。

理 念

Challenging Spirit
チャレンジ精神

Respecting People
人間尊重

Making Profit
利益の確保

わたしたちの行動指針

● 法令の遵守

わたしたちは、あらゆる行動において倫理的に正しい行為を最優先に考えます。常に、法令・ルールを遵守し、遵法精神が高い企業であるために社会的良識を持って行動します。法令・ルールに違反する行為、違反のおそれのある行為を発見した場合には、所属長または企業倫理改善提案窓口にて報告、提案、相談します。

● 人権の尊重

わたしたちは、働く全ての人々を尊重し、いやがらせや差別、児童労働、強制労働など、人権侵害につながる行為は行いません。

● 労働と安全衛生

わたしたちは、安心して働ける労働環境、労働条件を維持し、安全で衛生的かつ働き甲斐のある職場環境づくりを行います。

● 品質

わたしたちは、製品・サービスの品質と安全性を最優先し、定められた基準や手順を誠実に遵守し、お客様の期待に応えます。

● 社内規則の遵守

わたしたちは、コミュニケーション豊かで平等・健全な職場環境を築くために、社内規則の制定趣旨を正しく理解しこれを遵守します。

● 交通安全

わたしたちは、自動車部品の生産に携わる者として交通ルールを守り、譲り合いの精神で模範となる安全運転に努めます。

● 環境保全

わたしたちは、地球が人類の財産であることを理解し、生産にかかわる資源エネルギーの効率的活用と環境負荷の最小化を図り、地球環境の保全に努めます。

● 企業価値の拡大

わたしたちは、企業の存続が価値の創造であると捉えて社会に存在を認められる企業価値の拡大-長期継続的な利益確保-に努めます。

● 情報の管理と開示

わたしたちは、個人情報や機密情報と開示すべき情報を峻別し適切に管理します。開示すべき情報は法令・社内規則に従い適時適切な開示に努めます。

● 公正な取引

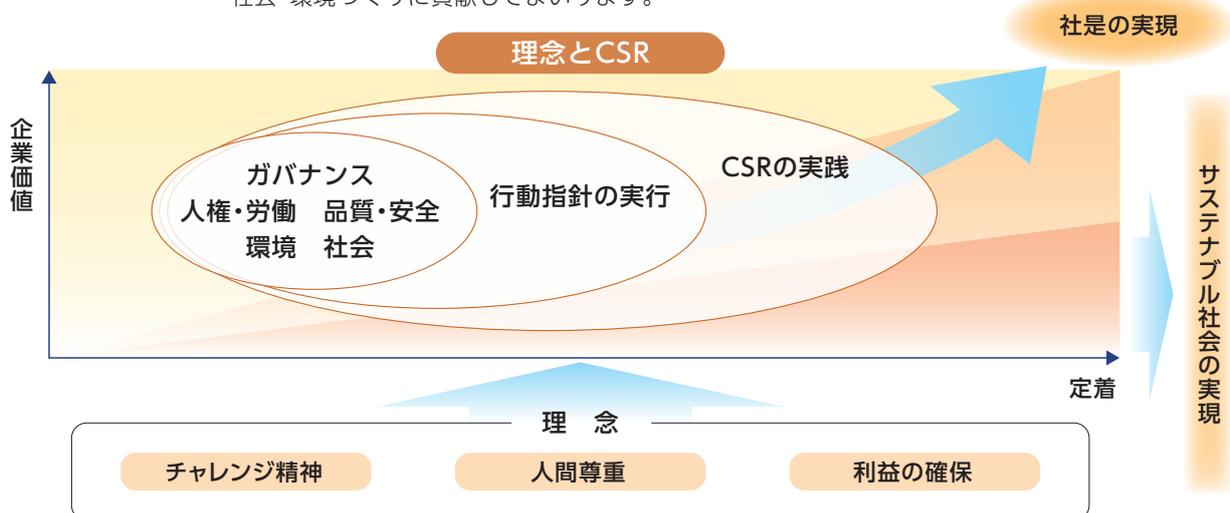
わたしたちは、不合理な商習慣には従わず、社会通念を超える利益供与や便宜、政治・行政との不透明な関係や反社会的勢力との関係を否定し、自由・公正・健全な取引を行います。

● コミュニティへの参画

わたしたちは、地域・社会の一員として、生活、文化、教育、福祉向上の為の活動等に積極的に参加し、平等で豊かな社会づくりを目指します。

CSRの考え方

わたしたちは、わたしたちの事業活動が、社会と環境に影響を及ぼすことを十分に理解し、社是、理念、行動指針のもと、責任をもって行動し、持続可能な社会・環境づくりに貢献してまいります。



CSR体制

エフテックグループ全体でのCSR体制の強化、サステナブル社会の実現へ。

前年度、取り組みの更なる強化を目指し、CSR体制の整備を行いました(下図参照)。全社CSR委員会は新体制のもと、各主管部門や専門委員会と連携を図りつつ、課題把握や最適な目標を設定し、グループ全体でのCSR活動を促すよう努めています。これらの部門、委員会は、当社のコーポレートガバナンスや内部統制強化の一環として、全社の諸問題を洗い出し、対応のフォロー、改善、未然防止策をグループ内に展開しています。

環境分野では、毎年開催される「環境会議」にて各事業所、各子会社の担当者を招集し、各拠点の環境負荷低減施策や活動情報を共有しています。

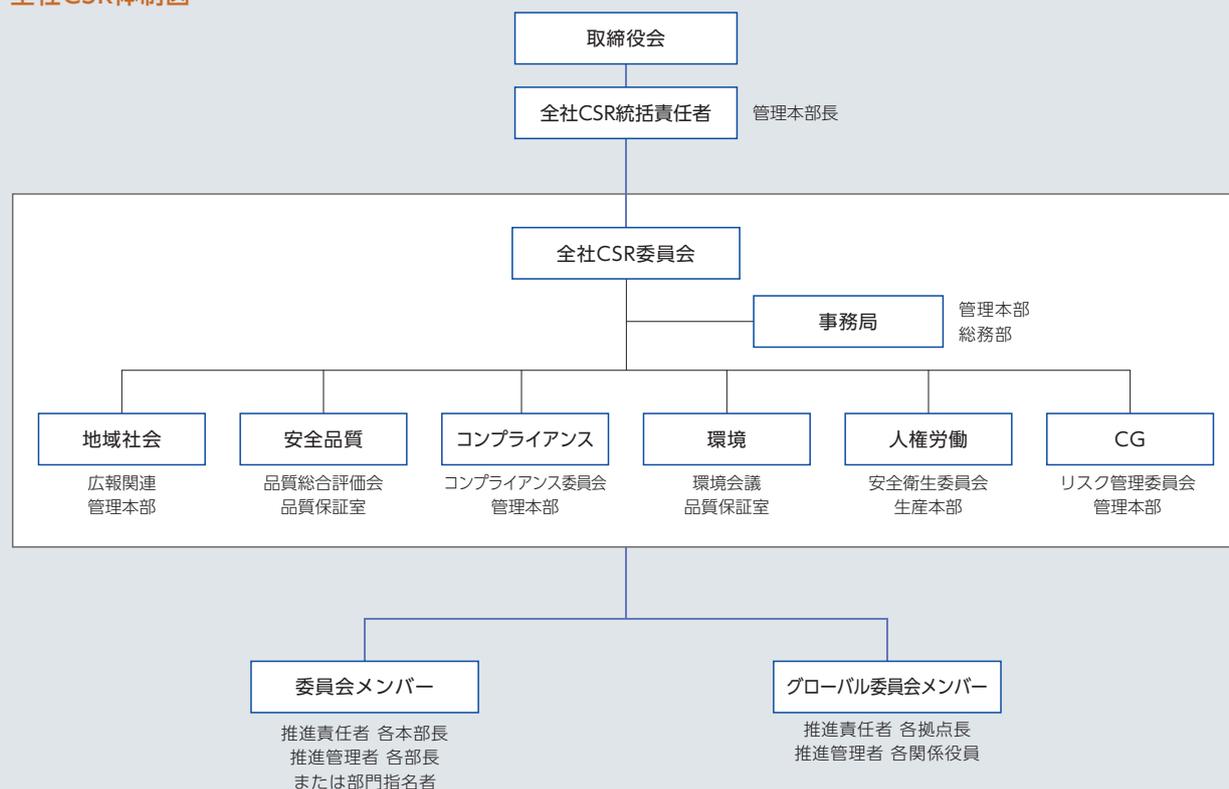
社会的分野では、仕事と家庭の両立可能な職場環境とともに、全社安全方針を「安全衛生ルールのグローバル共通化・共有化を行い、全拠点の安全レベル向上を目指す」と定め、労働環境の整備を行っています。また、グループ全体の品質方針を「最高の価値(品質)を提供し、お客様の満足度を最大にする」として、世界中で使われる自社製品の品質向上、安全性の追求に努めています。そして、ステークホルダーとのかかわりの中で、適時開示、建設的な対話の実施に努めています。

ガバナンスの分野では、コンプライアンス委員会が規程に沿って活動し、ストレスチェックの結果分析を行い、より風通しの良い職場環境の実現を目指しています。またリスク管理委員会は、各部門から選出された代表者等でメンバーを構成し、部門別の意見を取り入れながら、各種リスクへの対応策を検討しています。

毎年年度末には、国内外の子会社17社へ「エフテックCSR検証シート」を用いて自己検証を促し、その結果からグループ全体のCSR評価や対処すべき課題を導き出し取締役会に報告し、その監督を受けています。

また、当社グループのCSR活動の原点である「わたしたちの行動指針」と、その解説書である「ガイドライン」を5言語に翻訳し、グローバルでの共通認識となるよう展開しています。海外子会社の経営会議にエフテックの取締役、監査役、及び担当執行役員等が参加し運用体制の管理、監督を行いながら、サステナブルな社会の実現を目指しています。

全社CSR体制図



コーポレートガバナンス体制

■ 取締役会

当社の取締役会は、取締役5名（うち社外取締役2名）で構成されており、会社の経営上の意思決定機関として、重要な業務執行・法定事項の決定を行うほか、業務執行の監督も行っています。経営の監督と業務執行機能を分離し、取締役会における意思決定と監督機能を強化すること、及び業務の迅速な執行を図ることを目的として、執行役員制度を導入しています。

また、業務執行の監督を客観的に行うため、独立性の高い社外取締役2名を選任し、多角的な視点から意見・提言を受けることで、外部の視点を取り入れながら経営に活かしています。なお取締役については、経営環境の変化に機敏に対応できるよう、任期を1年としています。

■ 海外事業

海外事業においては、取締役兼専務執行役員からグローバルSED統括担当、グローバル事業管理担当を任命し、海外グループ会社における意思決定プロセスに参加し、投資の妥当性や事業の収益評価をトータルで行う体制としています。

■ 報酬決定方針

取締役等の報酬等の額またはその算定方法の決定については、透明性、公正性、合理性を維持するため、取締役会

の諮問を受けた独立社外取締役が過半数を占める任意の指名・報酬委員会が、定期的に第三者によって実施される企業経営者報酬サーベイ等に基づきその内容について審議し、その結果について取締役会に答申した後、取締役会において決定することとしています。

同様に業績連動報酬も、指名・報酬委員会にて報酬水準を決定するための重要指標、目標水準及び計算方法について審議された後、取締役会にて決議されています。

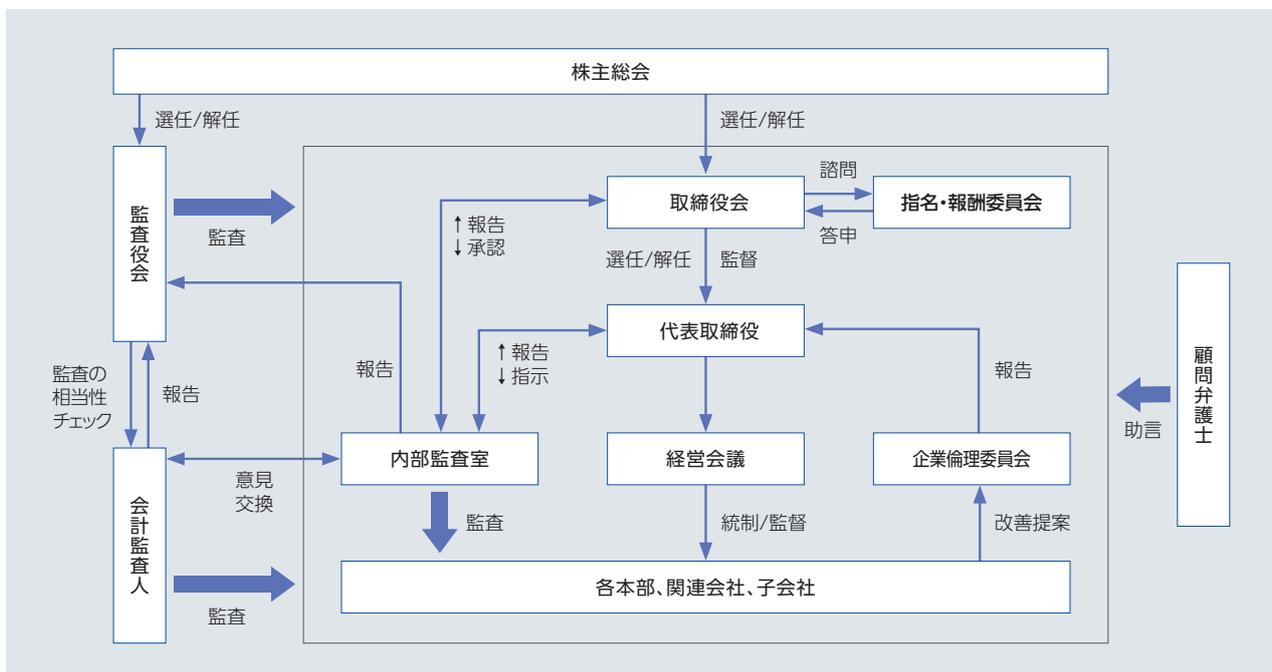
■ コンプライアンスへの取り組み

当社は、国内外の法令、社内規則を遵守することはもとより、人権侵害を含むハラスメントを防止するため「コンプライアンス規程」を定め、年代や階層に合わせたコンプライアンス研修を行い、毎月のメールマガジンによる情報展開を行っています。

匿名での相談が可能な窓口として、「企業倫理改善提案窓口」を社内外に設け、提案しやすい体制を整えています。問題が発覚した場合、「企業倫理委員会」を開催し、提案者の保護はもちろん、調査等を行い対策を検討し、該当部門への改善指示をします。なお、海外子会社全拠点内においても「目安箱」または「通報窓口」のいずれかを設置し、風通しの良い職場環境づくりを進めています。

■ リスクへの取り組み

「リスク管理規程」を定め、各種リスクへの対応及び回避



に努めています。「リスク管理委員会」は、生産本部長をリスクマネジメントオフィサーとし、管理本部長や、各部門長等から構成され、各業務の専門的な意見を取り入れて、具体的な対策について検討を行っています。

その他、BCP(事業継続計画)ワーキング・グループでは、部門別対応マニュアルの整備、更新を進めています。さらに、大規模災害等の不測の事態が発生した場合は、直ちに社長を本部長とする緊急対策本部を設置し、対策方針の決定、早期復旧、回復にあたる体制を整えています。

なお、新型コロナウイルス感染防止対策については、引き続き



コンプライアンス研修



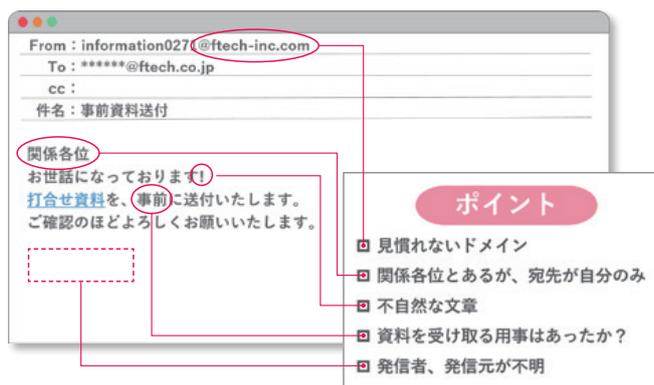
コンプライアンスポスター

基本的な感染防止策を社内でも実施しています。従業員に感染者が出た場合は、早期の検査実施や休暇取得等、「新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」に基づく対応を徹底し、注意喚起を行っています。

■ 情報セキュリティの取り組み

「情報セキュリティガイドライン」を全従業員に配布し、周知徹底を図っています。取締役会など重要会議の議事録は、「文書帳票管理規程」、「秘密保持規程」及び「情報システム管理規程」に基づき管理を行っています。各契約書等については、「契約書管理規程」によるルールを定め監督しています。

2021年度は、11月にEmotetと呼ばれるマルウェア*が猛威を振るいましたが、標的型攻撃メール訓練をはじめ、クラウドメールセキュリティサービスによる受信メールのチェック、定期的な注意喚起により、被害を出すことはありませんでした。また、「情報セキュリティ委員会」では、セキュリティ事故発生時の被害把握と対応迅速化を目的としたパソコンの棚卸を実施したほか、未知の脅威に対応するため、EDR*/MDR*導入の検討と実証実験を行いました。今後は実際にEDR/MDRを導入し、更には分散されているバックアップ運用の統合やクラウド連携を進め、様々な脅威に対応できる体制強化を行います。



標的型攻撃メール訓練サンプル

※マルウェア
不正かつ有害に動作させる意図で作成された悪意のあるソフトウェアや悪質なコードの総称。

※EDR: Endpoint Detection and Response
パソコンやサーバー(エンドポイント)における不審な挙動を検知し、迅速な対応を支援するソリューション。

※MDR: Managed Detection and Response
ネットワーク内に侵入した脅威をいち早く検知し、素早く対応をとるためのマネージドサービス。

役員紹介

取締役



ふくだ ゆういち
福田 祐一

代表取締役

重要な兼職
なし

主な経歴

1994年12月 当社入社
2004年 6月 当社取締役
2008年 6月 当社取締役兼専務執行役員
2010年 3月 当社管理本部長
2012年 4月 当社営業・北米統括
2013年 4月 当社国内統括
2014年 4月 当社取締役兼副社長執行役員
2015年 4月 当社代表取締役社長(現任)
2021年12月 当社指名・報酬委員会 委員(現任)



ふじたき はじめ
藤瀧 一

取締役兼専務執行役員
グローバルSED統括

重要な兼職
なし

主な経歴

1981年 8月 当社入社
2004年 6月 当社上席執行役員
2008年 5月 F&P America Mfg., Inc. 社長
2012年 4月 当社品質保証本部長
2012年 6月 当社取締役兼常務執行役員
2013年 4月 当社生産本部長
2016年 4月 当社営業本部長
2017年 4月 当社営業本部長兼アジア大洋州地域統括
2020年 4月 当社取締役兼専務執行役員(現任)
2020年 4月 当社グローバルSED統括(現任)



あおき ひろゆき
青木 啓之

取締役兼専務執行役員
管理本部長
グローバル事業管理担当

重要な兼職
なし

主な経歴

2015年 8月 当社入社 管理本部副本部長
2016年 4月 当社上席執行役員
2016年 4月 当社管理本部長(現任)
2016年 6月 当社取締役兼上席執行役員
2020年 4月 当社取締役兼専務執行役員(現任)
2020年 4月 当社グローバル事業管理担当(現任)



ともの なおこ
友野 直子

取締役 社外 独立

重要な兼職
T&Tパートナーズ法律事務所 パートナー
大成ラミック株式会社 社外取締役

主な経歴

1988年 4月 株式会社西武百貨店(現 株式会社そごう・西武)入社
2008年12月 弁護士登録(第二東京弁護士会)
2009年 1月 高木佳子法律事務所(現 T&Tパートナーズ法律事務所)入所
2013年 1月 高木佳子法律事務所(現 T&Tパートナーズ法律事務所)パートナー(現任)
2016年 6月 大成ラミック株式会社社外取締役(現任)
2017年 6月 当社社外取締役(現任)
2021年12月 当社指名・報酬委員会 委員長(現任)



こが のぶひろ
古閑 伸裕

取締役 社外 独立

重要な兼職
日本工業大学 基幹工学部 教授
日本工業大学 産学連携起業教育センター長
一般社団法人 さいしんコラボ産学官 理事

主な経歴

1996年 4月 日本工業大学 工学部(現 基幹工学部)助教授
2002年 4月 日本工業大学 工学部(現 基幹工学部)教授(現任)
2013年 4月 日本工業大学 産学連携起業教育センター長(現任)
2016年 5月 一般社団法人 さいしんコラボ産学官 理事(現任)
2018年 6月 当社社外取締役(現任)
2021年12月 当社指名・報酬委員会 委員(現任)

スキルマトリクス

氏名/項目	性別	独立役員	企業経営	技術・開発	生産・製造技術	営業・調達	財務・会計	法務・リスク管理	ガバナンス・CSR	学識経験	海外経験
福田 祐一	男性		○		○	○	○				○
藤瀧 一	男性			○	○	○					○
青木 啓之	男性						○	○	○		○
友野 直子	女性	社外独立						○	○		
古閑 伸裕	男性	社外独立		○						○ (工学)	

監査役

とよだ まさお
豊田 正雄

常勤監査役

重要な兼職
なし

主な経歴

1981年 6月 当社入社
2005年 10月 F&P GEORGIA MFG., INC. 社長
2008年 6月 当社取締役兼常務執行役員
2009年 3月 当社営業本部長
2012年 4月 当社管理本部長
2014年 4月 当社取締役兼専務執行役員
2016年 4月 当社経営企画室長
2017年 6月 当社常勤監査役(現任)

いけざわ やすゆき
生澤 靖之

常勤監査役

重要な兼職
なし

主な経歴

1980年 4月 当社入社
2002年 4月 当社開発企画室 管理ブロックリーダー
2004年 6月 当社久喜事業所 管理ブロックリーダー
2009年 3月 当社亀山事業所 管理ブロックリーダー
2013年 4月 F&P Mfg., Inc. 取締役
2016年 5月 F&P Mfg., Inc. 常務取締役
2018年 6月 当社常勤監査役(現任)

たかはし ひろし
高橋 宏志監査役 社外 独立重要な兼職
損害保険契約者保護機構 理事
公益社団法人 商事法務研究会 代表理事副会長
公益財団法人 社会科学国際交流江草基金 理事長
渥美坂井法律事務所 顧問

主な経歴

1985年 8月 東京大学 法学部 教授
1998年 12月 損害保険契約者保護機構 理事(現任)
2007年 4月 東京大学 理事・副学長
2009年 5月 東京大学 名誉教授
2009年 6月 森・濱田松本法律事務所 客員弁護士
2010年 2月 公益社団法人 商事法務研究会 理事
2017年 6月 公益財団法人 社会科学国際交流江草基金 理事長(現任)
2018年 4月 渥美坂井法律事務所 顧問(現任)
2019年 6月 当社社外監査役(現任)
2022年 6月 公益社団法人 商事法務研究会 代表理事副会長(現任)

ますだ けんいちろう
増田 賢一郎監査役 社外重要な兼職
公益財団法人
埼玉りそな産業経済振興財団 理事長
株式会社ダイソー 非常勤監査役

主な経歴

1984年 4月 株式会社埼玉銀行(現 株式会社埼玉りそな銀行)入行
2011年 6月 株式会社りそなホールディングス 執行役グループ戦略部長
2013年 4月 株式会社りそな銀行 執行役員
2013年 4月 株式会社りそなホールディングス 執行役
2016年 4月 株式会社埼玉りそな銀行 取締役兼常務執行役員
2018年 4月 株式会社埼玉りそな銀行 代表取締役兼専務執行役員
2019年 6月 りそな保証株式会社 代表取締役社長
2022年 4月 公益財団法人 埼玉りそな産業経済振興財団 理事長(現任)
2022年 6月 当社社外監査役(現任)
2022年 10月 株式会社ダイソー 社外監査役(現任)

当社は改訂コーポレートガバナンス・コードに対応し、下記の施策を行っています。

コーポレートガバナンス・ガイドラインでは

性別、国籍、人種など、多様な人材の存在が企業の価値観や創造力の源であり、企業価値向上にとって不可欠であることを認識しており、多様な人材が活躍できる環境を整備しております。女性・外国人・中途採用者の管理職への登用等、中核人材の多様性の確保についての考え方と測定可能な目標を示すものとして多様性の確保に向けた人材育成方針と社内環境整備方針を策定しております。また、企業理念の一つに「人間尊重」を掲げており、性別、国籍、人種などの垣根を越えて従業員同士が互いの価値観を認め、多様な視点で新たな価値を創造することが企業の成長に不可欠であると考え、積極的に多様性の確保に努めてまいります。

■ 女性管理職

「子育てサポート企業」として厚生労働大臣が認定する「くるみんマーク」を取得するなど女性社員が活躍できる環境の整備に積極的に取り組んでおり、2019年4月には初めて女性が部長職に就きました。また、女性社員の意見を事業運営に活かすべく、社長による女性社員とのタウンミーティングを実施しています。経営陣を支える管理職層における多様性を確保するために、女性管理職数を2025年度には2020年度比で2倍以上、2030年度には全管理職のうち女性管理職が占める割合を10%以上とすることを目指しています。

■ 外国人管理職

グループ売上高の約9割を海外売上高が占めており、事業におけるグローバル化の推進と合わせて人材のグローバル化にも積極的に取り組んでいます。外国人等グローバル人材を採用するために、海外における採用活動に加えて、国内においては2023年度新卒採用活動より採用計画にグローバル人材の目標数を明示しています。外国人管理職は現状1名おり、2025年度には外国人管理職数及び外国人社員数を現状より増加させる予定です。

■ 中途採用管理職

即戦力となる人材を中途採用しており、管理職における中途採用社員の比率は2021年度で28%となっており、2025年度においても現状を維持する予定です。

■ 人的資本への投資

多様性確保を促進すべく、多様な働き方と人材育成を実践できる、健全で働きやすい環境を目指しています。具体的には、育児などを理由に休業あるいは短時間勤務を希望する社員に対して個別相談会を実施するだけでなく、職場環境の整備に向けた管理職向け説明会も併せて実施しています。また、男性社員の育児休業取得促進に向けて、対象社員に対し、育児休暇取得の意向確認を行っています。フレックスタイム制勤務については、各職場の実状を踏まえて清算期間を選択できるような制度運用を行っています。年次有給休暇については、時効で消滅する日数を「0」とすることを目標に掲げており、一般従業員は23年連続で目標を達成しています。また、2019年7月から、定年再雇用者の新たな働き方として、モチベーション向上と技術継承を目的とした「匠制度」を始めました。様々な領域において高度な技術を持つ熟練者を「匠(たくみ)」として認定し、指導者としての役割を担うことで責任に応じた新たな報酬を設定しています。

役職別男女人数

(毎年度4月1日基準)

年度		2017	2018	2019	2020	2021
管理職 登用	男	10	13	7	8	6
	女	0	0	0	0	0
管理職	男	166	177	171	175	162
	女	2	2	2	2	2
部長	男	19	19	17	16	18
	女	0	0	1	1	1
課長	男	23	27	30	34	35
	女	1	1	0	0	0
係長	男	38	45	49	50	50
	女	3	3	2	2	2



F-TECH CSR REPORT 2022

Social

社会

エフテックグループは、
人間尊重の考えで、健全で働きやすい環境を目指しています。
そのための様々な施策を行っています。
ダイバーシティの取り組みや、
ワークライフバランス等の取り組みを推進しています。

人間尊重の考え方のもと、健全で働きやすい環境を目指します。

ダイバーシティの取り組み

■ 女性社員の活躍推進

エフテックでは、男女を問わず全ての人が個性と能力を發揮できる職場を目指しています。作業の性格上、男性が中心だった製造・エンジニアリング・開発・購買部門では、作業環境が大きく改善され、女性の配置が積極的に進められるなど、全社的に様々な分野で女性が働くことができるよう取り組んでいます。

今後は女性活躍推進法に基づき、更なる女性の進出拡大を目指し、採用・登用及び指導者の育成の取り組みを進めていきます。仕事とプライベートのバランスが図られ、男女ともに充実した社会生活を送ることができるよう環境整備に取り組めます。



■ 高年齢層(シニア世代)の活躍推進

60歳の定年を迎える従業員を対象に、定年後も継続して働くことができる環境を提供するとともに、定年後の働き方を考えるためのライフプランセミナーなどの情報提供も行っています。また、2019年7月からは、定年再雇用の新たな働き方として、モチベーション向上と技術継承を目的とした「匠制度」を始めました。これは、高度な技術を持つ熟練者を「匠」(たくみ)として認定し、後継者へ技術を伝承する指導者として重要な役割を担っていただく制度であり、役割・責任に応じた報酬制度としています。

匠制度該当者・定年再雇用者人数 (2022年5月末時点)

- 嘱託従業員全体…………… 39名
- うち匠制度該当者…………… 15名



■ 外国人社員の活躍とグループ内活性化

エフテックグループには海外拠点が18か所あり、グループ全体の成長を図るためには各拠点との連携が不可欠です。積極的に外国人を採用してきた結果、様々な国籍の従業員が活躍しています。また、技能実習生や海外拠点からの短期研修生の受入れ等も推進しています。



■ 障害者の活躍推進

エフテックでは、障害者雇用において、特別支援学校との情報交換会に参加する等取り組んでいます。現在、法定を上回る雇用を継続しており、2021年度は法定雇用率2.3%(21人)に対し2.4%(22人)となっています。

ワークライフバランスの取り組み

■ 長時間残業の削減

フレックスタイム制度拡大中

- 芳賀テクニカルセンター
- 本社(2020年8月～)
- 久喜地区の一部(2021年10月～)
- 亀山地区の一部(2021年10月～)



残業時間 月20H以内を基本

年度	2019	2020	2021
残業月平均時間	11H	→ 5.9H	→ 6.3H

■ 年次有給休暇の取得促進

エフテックでは、時効で消滅する年次有給休暇を全社員「0」とする目標を掲げており、一般従業員は目標を23年連続達成しています。また、取得促進を図るために半日有給休暇は制度の範囲内で年20回取得可能としており、育児・介護等個人の状況に合わせ柔軟に対応できるようにしています。

年次有給休暇
時効消滅「0」目標 **23年連続達成**

■ 育児・介護両立支援

育児や介護について、上司と部下が相互に理解し合える協力的な職場環境づくりを目指し、以下の取り組みを推進しています。

- 1 「仕事と育児・介護の両立支援ガイドブック」を社内ポータルサイトで発信
- 2 管理職を対象とした育児・介護休業法改正説明会の開催
- 3 男性向け育休取得促進のための周知文書の掲示

育児休業取得復帰者推移

年度	2017	2018	2019	2020	2021
男性	1	1	3	1	4
女性	6	6	3	6	1
合計	7	7	6	7	5
復帰者	6	6	6	7	5(予定)

育休取得率100% (女性で妊娠した方の育休取得率)
復帰率93.7% (育休を取得した男女で職場復帰した率)

- ・育児のための短時間勤務制度は、法令を上回る小学校3年生終了時まで利用可。(現在13名が利用中)
- ・介護休業は法令を上回る、対象家族1人につき通算最長1年までの範囲内で3回を上限とし休業が可能。



育児・介護休業法改正説明会

2015年より厚労省の次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定しています。

2018年4月～2021年3月までで、

①管理職対象の育児両立支援制度説明会

②育児休業取得前・復帰前の面談制度

に取り組んだ結果、2021年8月に2度目のくるみん認定を取得しました。



くるみん認定証交付式



男性でも育児休業の取りやすい環境が整備されています。

管理本部 経理部
岡田 裕也



私は、管理本部経理部に所属し、主に財務業務全般、海外子会社との取引の仕訳処理・決算処理を担当しております。今回、第二子の長男が生まれたことにより2021年9月から10月まで1か月強の育児休業を取得しました。

私の家庭では長女が自動車の送迎で幼稚園に通っていましたが、妻は出産後で運転はできず、両親に送迎を頼むことができないため私が育休を取得し、送迎を含む家事育児を担うことになりました。

育休を取得する前は男性が育休をとって何ができるのか漠然としていましたが、実際に育休を取得してみると、長男の育児、長女の送迎はもとより、買い物・掃除・洗濯など日々の家事・育児の大変さを改めて知る機会となり、1か月ではありますが有意義な時間を過ごすことができました。コ

ロ禍での出産ということもあり、外出は最小限に留めましたが、長男が生まれたことによる長女のメンタルケアができたことも非常にありがたかったです。

私の所属する経理部では年に4回決算を行っており、決算期は部員一丸となって決算をまとめています。私が育休を取得した10月は決算月と重なっており、繁忙期にもかかわらず育休を取得できたことは職場の同僚の協力はもちろんのこと、男性でも育休を取得できるという職場の風土が醸成されているからこそだと感じました。

今回の育休を経験し、家族が増えるという人生の一大イベントにおいて、母親だけでなく父親も共に加わり、協力することの大切さを知りました。育休を取得しようと考えている男性がいたら積極的に取得してほしいと思います。

子育てに関する理解が職場全体に浸透しつつあることを実感

開発本部 試作部 試作製造課
門井 謙治



私は、栃木の芳賀テクニカルセンターの試作製造課に所属し、主にペダルなどのコントロール部品の試作業務を担当しています。

コロナウイルスが蔓延している中、当時ワクチン接種はもう少し先になるという状況であり、感染予防の観点を含め育児休業を2021年9月から10月まで約2か月間取得しました。

育休期間中は夫婦交代で家事育児をしましたが、前半の1か月は夜泣きであったり、静かに寝ている時は、それはそれでちゃんと呼吸をしているか不安になったり、昼夜問わずほぼ3時間ごとの授乳であったりと、常に寝不足の日々でした。

後半はそういったリズムにも慣れ、不安な部分も解消されていき、日中は体力維持のため子供を抱いて散歩したり軽い筋トレをしたりと余裕が出てきましたが、振り返ると

育休を取得することで一昔前の常識である女性のワンオペ育児の大変さ、言葉だけでは分からない本当の意味での男女平等を体験することができました。

テクニカルセンターでは男性の育休はこれまで前例がなかったとのことですが、職場の上司、先輩、同僚の理解もあり取得することができました。育休取得前に様々な諸先輩方に育児の話をつたったところ、男性の出る幕はないよ、といった声もありましたが実際に経験してみると、大変有意義なものでした。逆に今の時代だからこそ男性も経験できるのかもしれない。

私の育休復帰以降、テクニカルセンターでも育休を取得する男性が増えてきたといった話も聞きます。仕事も育児にもしっかりと取り組み、充実した人生を送っていくためにも、これから育休を考えている方がいたらこの制度を積極的に活用してほしいと思います。

労働・安全衛生の取り組み

グループ全体での安全レベル向上を目指して

エフテック及びFEG[®]では、2021年度の全社安全方針を「安全衛生ルールのグローバル共通化・共有化を行い、全拠点の安全レベル向上を目指す。」と定め、当社グループ全体での労働安全衛生活動を引き続き実施しています。

エフテック及びFEGの委員で組織されている全社安全委員会では、委員会で指摘のあった項目に対する各拠点の改善、対策状況の確認や、安全衛生関連の法改正への対応など活発な意見交換がなされました。また、従来どおり「統一した安全評価・ルールの策定(定常作業/非定常作業)」を設定しました。「休業災害0件」「不休業災害の防止」に向けた活動のほか、通勤災害、交通事故等の撲滅に向けた活動も行っています。

2022年度についても2021年度に続いて、全社安全方針のもと安全レベル向上のため活動しています。

※エフテックの100%子会社のフクダエンジニアリング株式会社

安全衛生関連法令改正・制定への対応

金属アーク溶接において発生する「溶接ヒューム」が労働者に健康障害を及ぼすおそれがあることから、労働安全衛生法施行令、特定化学物質障害予防規則(特化則)等が改正、制定され、事業者健康障害防止措置が義務づけられました。この改正政省令・告示は、2021年4月1日^{*}から順次施行されています。

※換気風量の増加、保護具の選択・使用、特定化学物質作業主任者の選任等は2022年4月1日、フィットテストの実施については2023年4月1日に施行

法令の改正、制定により義務づけられた作業場の溶接ヒューム濃度の測定、マスクのフィットテスト、特定化学物質作業主任者の選任、特殊健康診断の実施、安全衛生教育、関係者以外の立入禁止措置、洗浄用具の設置、有効な保護具の備え付けなどの健康障害防止措置について、当社グループ国内拠点での対応を進めています。

安全文化の醸成

職場の安全衛生、安心して働ける職場を作り、これらを維持するうえで重要なことは、作業手順、適切な保護具の着用、職場における5Sなどの基本的なルールを守ることです。

過去に起きたトラブルに基づき「二度と同じことを起こさない」との強い決意から、これらのルールが作られ継続して改善されています。

このルールを「禁じ手」として蓄積し、今後、教育資料等として活用し、従業員に引き継いでいくことでルールを遵守する意識・姿勢を定着化させ、安全文化の醸成に努めていきます。

全社安全委員会の協議資料

<p>溶接ヒュームの労働安全衛生法改正</p> <p>1) 溶接ヒュームへの健康障害防止対策</p> <p>全体換気装置による換気等 空気中の溶接ヒューム濃度の測定(0.05mg/m³) 換気装置の風量増加等の措置 呼吸用保護具の使用と選択 マスクのフィットテストの実施(1回/年) 特定化学物質作業主任者の選任(管理員2級) 特殊健康診断の実施等(1回/年) その他必要な措置</p> <p>2) 溶接ヒュームばく露防止措置等</p> <p>(1) 労働衛生教育(導入段階・作業開始時(労働者対象)・(2) ばく露の低減(特化則)・(3) 不潔な行為(特化則)・(4) 特定化学物質作業主任者の選任(特化則)・(5) 関係者以外の立入禁止措置(特化則)・(6) 作業場の設置(特化則)・(7) 作業場の設置(特化則)・(8) 基準超過の措置(特化則)・(9) ばく露の低減(特化則)・(10) 有効な保護具の備え付け(特化則)</p> <p>屋内作業場の床等を、水気等によって容易に掃除できる構造のものとし、水洗等粉じんの飛散しない方法によって、毎日1回以上掃除しなければならないこと</p>	<p>溶接ヒュームの労働安全衛生法改正</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>対応内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体換気装置による換気等</td> <td>設置済み</td> </tr> <tr> <td>空気中の溶接ヒューム濃度の測定(0.05mg/m³)</td> <td>2021年、2022年に測定実施</td> </tr> <tr> <td>換気装置の風量増加等の措置</td> <td>上記結果により検討</td> </tr> <tr> <td>呼吸用保護具の使用と選択</td> <td>?</td> </tr> <tr> <td>マスクのフィットテストの実施(1回/年)</td> <td>機器検討中(「労安全TRY実施」)</td> </tr> <tr> <td>特定化学物質作業主任者の選任(管理員2級)</td> <td>候補者にて2名選了、社内への選任はない?</td> </tr> <tr> <td>特殊健康診断の実施等(1回/年)</td> <td>2021年度より実施</td> </tr> <tr> <td>その他必要な措置</td> <td>床の水洗は本実施、マスクは3回使用</td> </tr> </tbody> </table>	項目	対応内容	全体換気装置による換気等	設置済み	空気中の溶接ヒューム濃度の測定(0.05mg/m ³)	2021年、2022年に測定実施	換気装置の風量増加等の措置	上記結果により検討	呼吸用保護具の使用と選択	?	マスクのフィットテストの実施(1回/年)	機器検討中(「労安全TRY実施」)	特定化学物質作業主任者の選任(管理員2級)	候補者にて2名選了、社内への選任はない?	特殊健康診断の実施等(1回/年)	2021年度より実施	その他必要な措置	床の水洗は本実施、マスクは3回使用
項目	対応内容																		
全体換気装置による換気等	設置済み																		
空気中の溶接ヒューム濃度の測定(0.05mg/m ³)	2021年、2022年に測定実施																		
換気装置の風量増加等の措置	上記結果により検討																		
呼吸用保護具の使用と選択	?																		
マスクのフィットテストの実施(1回/年)	機器検討中(「労安全TRY実施」)																		
特定化学物質作業主任者の選任(管理員2級)	候補者にて2名選了、社内への選任はない?																		
特殊健康診断の実施等(1回/年)	2021年度より実施																		
その他必要な措置	床の水洗は本実施、マスクは3回使用																		
<p>溶接ヒュームの労働安全衛生法改正</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>対応内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>労働衛生教育</td> <td>従来通り</td> </tr> <tr> <td>不潔な行為</td> <td>従来通り</td> </tr> <tr> <td>関係者以外の立入禁止措置</td> <td>高専稼働導入に際し</td> </tr> <tr> <td>換気装置の風量増加等の措置</td> <td>従来通り</td> </tr> <tr> <td>呼吸用保護具</td> <td>従来通り</td> </tr> <tr> <td>洗浄用具の設置</td> <td>従来通り</td> </tr> <tr> <td>飲食等の禁止</td> <td>高専稼働導入に際し</td> </tr> <tr> <td>有効な保護具の備え付け</td> <td>従来通り</td> </tr> </tbody> </table>	項目	対応内容	労働衛生教育	従来通り	不潔な行為	従来通り	関係者以外の立入禁止措置	高専稼働導入に際し	換気装置の風量増加等の措置	従来通り	呼吸用保護具	従来通り	洗浄用具の設置	従来通り	飲食等の禁止	高専稼働導入に際し	有効な保護具の備え付け	従来通り	<p>溶接ヒュームの労働安全衛生法改正</p> <p>■ 溶接ヒューム濃度測定</p> <p>溶接ラインについては、問題なしの判定</p> 
項目	対応内容																		
労働衛生教育	従来通り																		
不潔な行為	従来通り																		
関係者以外の立入禁止措置	高専稼働導入に際し																		
換気装置の風量増加等の措置	従来通り																		
呼吸用保護具	従来通り																		
洗浄用具の設置	従来通り																		
飲食等の禁止	高専稼働導入に際し																		
有効な保護具の備え付け	従来通り																		

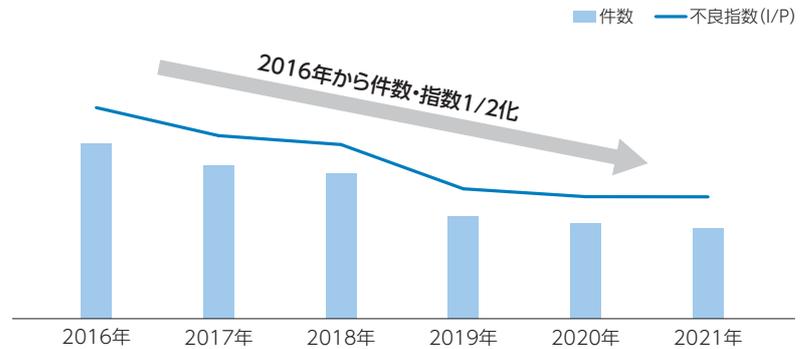
品質向上により、顧客満足度の最大化を目指します。

品質パフォーマンスの良化維持

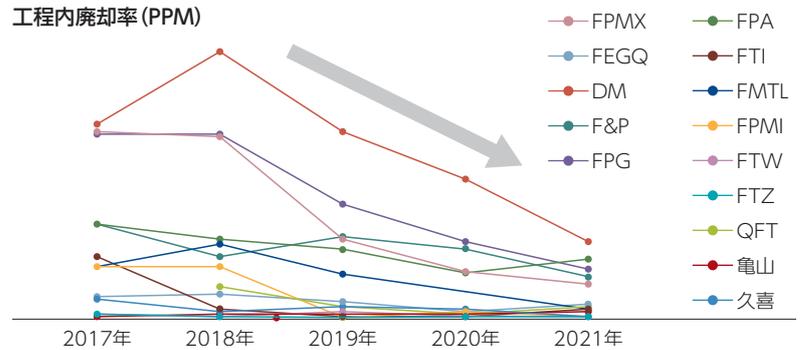
2021年度は、14次中期経営計画の2年目でした。2022年度に最終年度を迎えるにあたり、品質改善を加速させてきました。直近2年間は、各地域において新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、度重なる生産調整や要員調整等の環境変化に追われる状況が続きましたが、品質向上の取り組みを進め、顧客登録不具合(件数/不良指数)、工程内廃却率(PPM)、廃却仕損費の全てにおいて改善がみられ、グループ全体の品質パフォーマンスは良化傾向を維持しています。

ただし、北米地域においては他の地域よりも環境変化が激しく、日々の生産、要員変動の対応に苦慮する場面が多く、改善が停滞する状況でした。引き続き、先行き不透明な状況が見込まれるため、日本からの改善支援の強化を進めるとともに、現地でも日々の生産、要員変化の管理を充実させ、来年の中期経営計画最終年度の目標達成を目指しています。

顧客登録不具合 年度推移



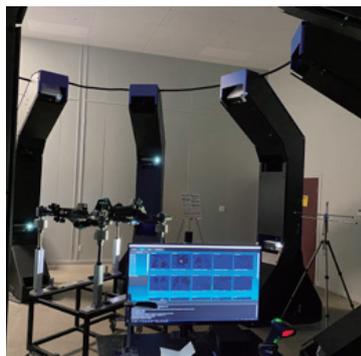
工程内廃却率(PPM)



品質改善取り組み “Back to Basics, Challenge for New”

品質改善の取り組みは、過去の品質不具合の原因を分析し、弱点領域を重点的に進めています。グループ全体として①異常品処置(変化点管理)不備、②検査工程での未検出(検査見逃し)に起因するところが多く、これは各地域において、昨今要員が安定しないことも原因の一つとなっています。

そこで、“Back to Basics”として、グループ全体で異常品管理、変化点管理の決定事項やルールを再整備し、全生産拠点で体制強化を図っています。また“Challenge for New”として、ベテラン検査員のノウハウを盛り込んだ自動品質判定装置の導入を各地域で進めています。基本に立ち返りながら、新しい挑戦をもって課題解決に取り組んでいます。



品質表彰を多数受賞！

昨年度は主要得意先及び新規顧客から、直近の品質改善活動や新機種、新製品の安定立上げが評価され、各地域において品質に関わる表彰を多数受賞しました。

《受賞例》

- GM[Supplier of the Year Award]
- TOYOTA[Excellent Quality Award]
- Nissan[Nissan Global Supplier Award]

引き続き、エフテックグループの品質方針である「最高の価値(品質)を提供し、お客様の満足度を最大化する」に基づき、取り組みを進めています。



株主・投資家とのかかわり

適時・適切な情報開示で経営の透明性を高めるとともに持続的な成長を目指します。

適切な情報開示

(エフテックコーポレートガバナンス・ガイドライン 第14条)

当社は、株主を含む全てのステークホルダーとの信頼関係の構築に努め、情報開示は、法定開示のみにとどまらず、経営方針や財務状況、事業の取り組みなどの情報、経営陣幹部の選解任及び取締役・監査役候補の指名を行う際の、個々の選解任・指名の理由等を公正かつ分かりやすく開示し、経営の透明性を確保する。

株主との建設的な対話

(エフテックコーポレートガバナンス・ガイドライン 第34条第1項)

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るためには、建設的な対話を目的とする株主との対話は不可欠であるとの認識のもと、双方向の対話の充実に努める。

■ 株主との建設的な対話に関する方針

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のためには株主との建設的な対話が不可欠であることを認識し、対話に当たっては以下の方針で臨むものとする。

1. 株主との対話は合理的な範囲で代表取締役社長、IR担当役員等、経営陣幹部、取締役及び監査役(社外取締役及び社外監査役含む)またはIR担当部門の管理職が行うものとする。
2. IR担当部門は、社内との関係部門と連携体制を構築し、建設的な対話を実現する。
3. 中期経営計画における戦略、事業ポートフォリオに関する基本的な方針や見直し状況、投資、当社の重要指標などについて株主に分かりやすく説明を行い、中長期的な企業価値を判断するための情報開示に努める
4. IR担当部門は、個別面談に加え、決算説明会や施設見学会の開催、IRフェアへの参加などIR活動の多様化を図る。
5. IR担当役員は、対話により自社の方針などを株主に丁寧に伝え、株主から意見をいただいた場合は、取締役等に伝達し共有する。
6. IR担当役員は、公平な情報開示を徹底するため、社内規程に基づき、未開示の重要情報の管理を徹底する。

株主、個人投資家、機関投資家の皆様とのコミュニケーション

当社は、株主・取引先・投資家・地域社会など、多くのステークホルダーへ、東証開示基準に基づき、東京証券取引所及び顧問弁護士へ確認を行いながら適時開示を実施しています。

当社への理解をより深めていただくために、株主総会・決算説明会・1on1ミーティング・電話会議等、様々なコミュニケーションを図る機会を設けています。また、海外の投資家様に向けて各種英語版資料を揃えており、英訳開示にも努めています。



第66回定時株主総会



WEB配信の様子

2021年5月の21年3月期決算説明会及び、2021年11月の22年3月期第2四半期決算説明会を、WEB配信にて開催しました。

フードドライブの開催(埼玉りそな銀行様との共同開催)

2021年11月、埼玉りそな銀行様との共同開催で、フードドライブを行いました。フードドライブとは、家庭で使わずに残っている食品を、処分される前に、食の支援を行う施設や団体に配り、生活支援を図るものです。社内募集期間2週間で、560点以上もの食品が集まり、久喜・加須市内の子ども食堂7団体へ寄付され、施設を通じて必要とする人々の支援に役立てられました。



ご家庭の未使用食品で、応援しませんか？

子ども食堂に寄付をしましょう！

持ち寄り期間 11月8日(月)～19日(金)
時間 AM8:00～PM6:00

場所 エフテック第一工場食堂 (打割機動)

活動内容
 お家で残っている食品を、処分される前に「子ども食堂」など食の支援を行う施設に配り、生活支援を図る活動です。

・持ち寄り品を入れる箱を準備します。その中に入れてください。
 ・協力人数把握のため、食品を入れる際は機械に社員番号を御記入ください。

集まった食品は、久喜・加須市内の「子ども食堂」7カ所へ寄付させていただきます。(当社にて11月25日贈呈式開催)

一食品例
 米、レトルト食品、油、調味料、お菓子、缶詰、ジュース類、コーヒー類、ゆかり・乾燥、乾物、調味料

注意いただきたいこと

- 常温保存が可能なもの
- 未使用・未開封のもの
- 賞味期限が明記されている
- 賞味期限が2022年以降
- 包装・外装が破損していない

※ご不明点等ございましたら、総務部までお問い合わせください。

ご存じですか？SDGs

2015年9月に国連で採択された、2030年までに持続可能なよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成されています。

子どもの食の応援活動は、Goal1「貧困をなくそう」、Goal2「飢餓をゼロに」、Goal3「持続可能なエネルギーを」と、Goal11「住み続けられるまちづくりを」、Goal12「つくる責任つかう責任」に寄与しています。

地域の清掃活動

久喜地区

備前堀川クリーンアップ活動

2021年11月11日
 2022年3月14日
 延べ参加人数：118名



亀山地区

アダプトプログラム※： 名阪工業団地緑地の清掃活動

2021年6月12日
 2021年11月13日
 延べ参加人数：108名



※アダプトプログラムとは

ボランティアとなる市民が里親となり、道路や公園等の公共施設を養子とみなして我が子のように面倒をみ(美化・清掃活動を行い)、これを市がサポートするボランティア制度です。亀山市では、平成19年4月1日に公園・緑地にこの制度を導入しています。(エフテック亀山事業所は、本制度の亀山市内第1号として参加)

芳賀地区

芳賀工業団地クリーン作戦

2021年5月28日
 2021年7月20日
 2021年10月21日
 延べ参加人数：69名



E



nvironment

環境

エフテックグループは、
2050年のカーボンニュートラルの実現に賛同し、
サステナブルな社会への貢献に向けて、
「CO₂排出削減」、「大気・水・土壌等の環境保全」、
「省資源・水や廃棄物削減」、「化学物質管理」、
「環境に配慮した製品開発」及び「生物多様性の保全」を
重要な環境課題として捉え、
環境負荷低減に取り組んでいます。

事業全体でのCO₂排出量ネット・ゼロにチャレンジし、製品を通じた「未来のモビリティ社会」への貢献を目指します。

脱炭素社会に向けた新たなチャレンジ

地球温暖化問題をめぐる世界の本格的な取り組みに注目が集まる中、2020年10月、日本においても「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指す」との方針が宣言されました。また自動車メーカー各社も電気自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）へのシフトやカーボンニュートラルの実現を進めていくことを表明しています。当社としても、地球温暖化を引き起こす原因の一つである温室効果ガスの排出抑制は緊急かつ重要な課題であると捉え、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを積極果敢に進めるべく「2050年カーボンニュートラルの実現」との目標を掲げ取り組んでいくことを決定しました。

製品への対応

当社の製品は、車の基本的な性能を機能的につかさどる重要保安部品です。現在、環境負荷の低減が原材料の調達

から使用、廃棄やリサイクルに至るまでの車のライフサイクル全体で求められています。

そのため、当社はEV・FCV化の流れの中、安全性や機能性を維持しつつも、製品の軽量化に積極的に取り組み、燃費性能向上に貢献してきました。

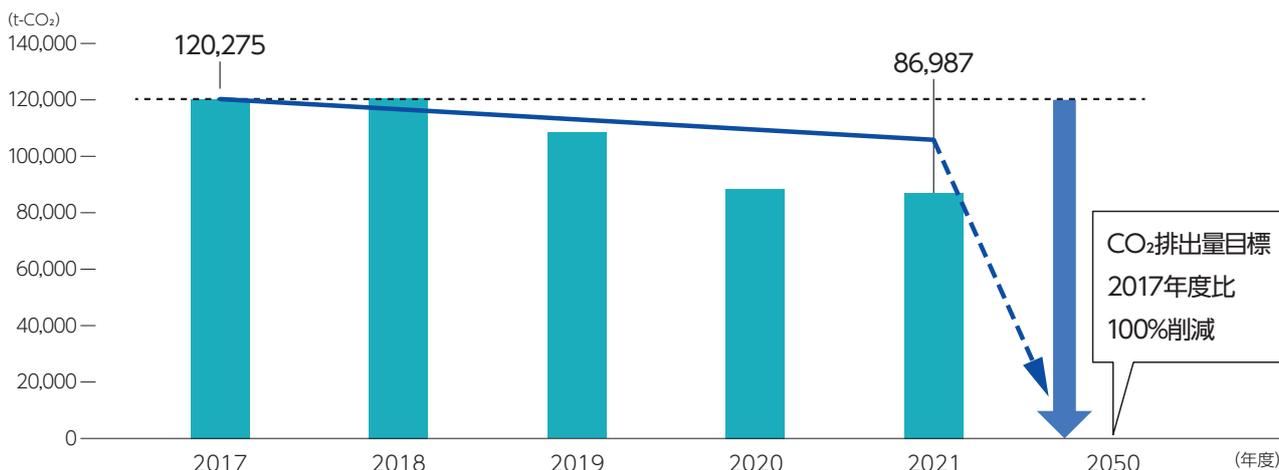
このように、当社の事業活動が環境に与える影響が、製品製造の視点からだけでなくライフサイクル全体で最小化されるよう、不断の評価と改善に取り組んでいきます。

CDPへの対応

当社はこれまで、環境マネジメントシステムをグローバルで展開し、環境課題に積極的に対応してきました。従来、自動車メーカー各社と個別で実施してきた環境コミュニケーションを、2017年度より第三者機関(CDP^{*})を通じた評価システムへシフトし、2021年度のCDP調査では、「B-」との評価をいただいています。今後も、CDPでの外部評価を最大限活用し、自社の環境取り組みを一層強化します。

※CDP：Carbon Disclosure Projectの略。英国で立ち上げられた非政府組織で、世界の国、企業、都市等の環境取り組み状況の情報を収集し、評価、開示を行っている。

当社製造領域 (Scope1&2) におけるCO₂排出量の推移



CDPの評価



2021年度評価	気候変動	水セキュリティ
F-TECH CO. LTD.	B-	B-

TCFD提言に基づく情報開示

気候変動に伴う様々な変化を重要な機会と捉え、この課題に積極的に取り組むことにより、企業価値を向上させてきました。こうした取り組みを投資家・ステークホルダーの皆様にお知らせするため、TCFD提言に沿った開示を進めています。

TCFD ガバナンス

■ 経営層による管理監督機能

取締役会は、気候変動に大きな影響を及ぼすカーボンニュートラルを含む経営上の重要事項、その他法定の事項について審議し決定を行うとともに、取締役及び執行役員の実務執行状況の監督を行っています。

■ 全社CSR委員会

環境を含むグローバルでのCSR課題への取り組みを推進するため、全社CSR委員会を設置しています。全社CSR委員会は、各専門領域における担当役員を中心に構成され、各専門領域において設定されたCSR課題の自律的な取り組み状況を把握し、更なる改善に向けた審議を行うとともに、その内容をグローバルに展開しています。

■ 環境管理体制

気候変動を含む環境課題については、日本拠点が主導する管理体制とし、各海外拠点においては、拠点長が環境責任者となり、配下に環境管理責任者及び実務担当者を設

置し、各拠点の環境課題の現状を把握し、課題改善に向けた管理体制を整備しています。(下図参照)

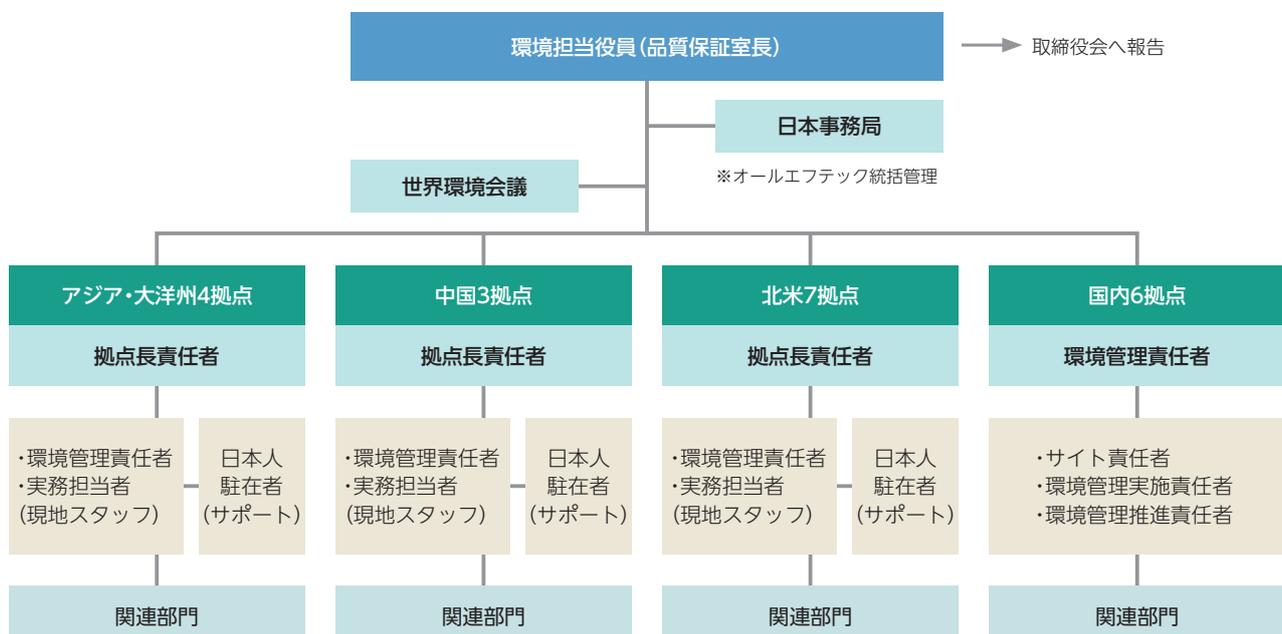
■ 環境法制の遵守

当社グループでは、環境理念のもと、ISO14001の環境マネジメントシステムを活用し、各国や地域の規制や利害関係者の要求事項等の遵守に努めています。なお、環境に係る重大な法令違反や罰金等の支払い及び重大な事故の発生はありません。

■ 内部環境監査

当社グループでは、日本の環境マネジメントシステム及びエネルギーマネジメントシステムをもとにグローバル展開を図っていますが、各海外拠点においても、日本のこれらマネジメントシステムがグローバルのシステムや規格と適合性が確保できるよう、定期的に内部環境監査を実施しています。監査の有効性を確保するため監査員の品質、維持、向上及び公平性確保に努めています。

エフテックグループ環境管理体制



TCFD リスク管理

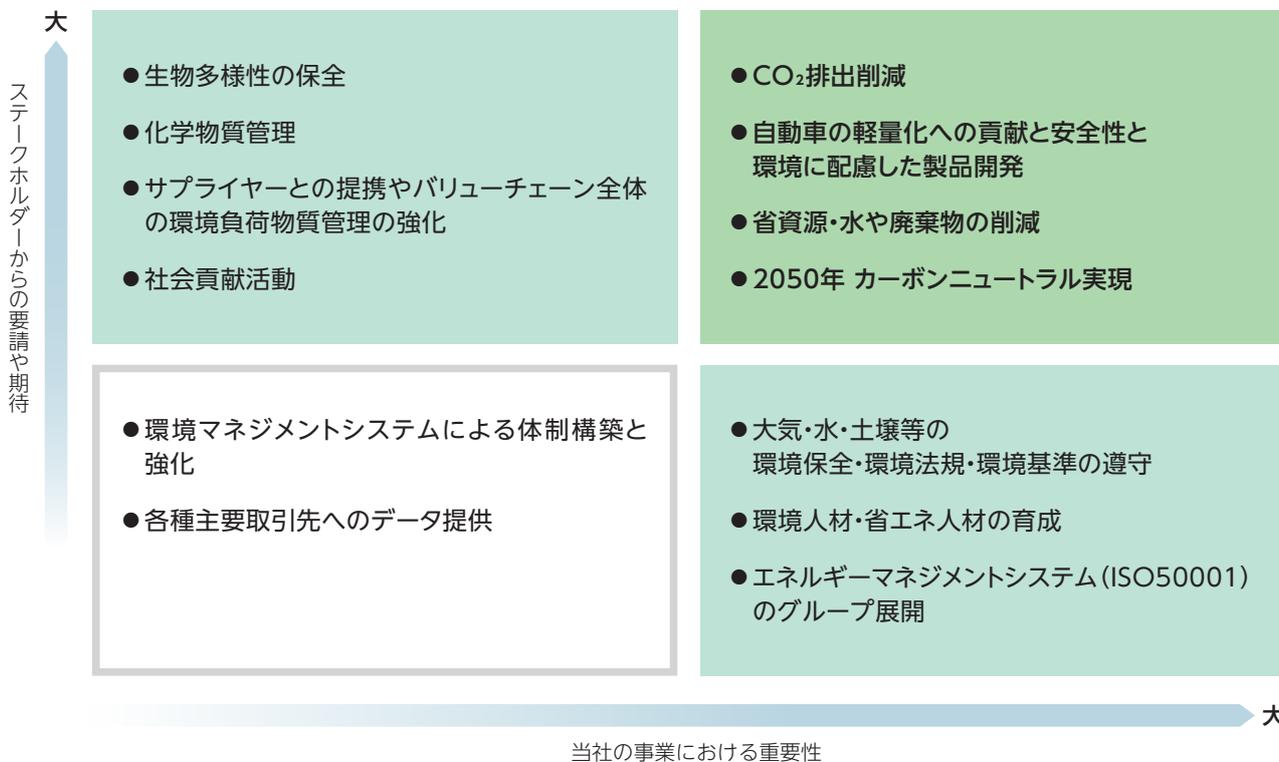
重要課題特定のプロセス

当社では、気候変動がもたらす当社事業へのリスク、得意先をはじめとする各ステークホルダーからの要請や期待を考慮し、課題を抽出しています。抽出した課題は、重要課題マップにより整理し、中長期事業計画に反映しています。

重要課題特定のプロセス



重要課題マップ



TCFD提言に基づく情報開示

TCFD 戦略

気候変動課題を含む環境に対する基本的な考え方

当社は、自動車の足廻り機能部品の製造会社として、設計・開発及び塑性加工、溶接、塗装、組立まで、安全性に配慮した一貫加工体制を構築し、技術を培ってきました。最近、自動車産業界では、ハイブリッド車や電気自動車など、バッテリーを搭載した自動車の生産・販売が主流になりつつあります。今後も自動車の足廻り機能部品のメーカーとして各自動車メーカーから選ばれ続けるために、当社は自動車の低燃費性能に貢献する軽量の製品を、安

全に、かつ地球環境に配慮しながら量産していかねばなりません。

一方で自動車は、多くの企業による多くの生産プロセスを経て製造され、一般消費者に販売されます。そして一定期間使用された後、廃棄されます。自動車のライフサイクルにおいては大量の環境資源が使用されています。

当社は、当社の事業活動がこうしたライフサイクルの中で行われていることを自覚したうえで、環境負荷低減へ積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献することを強く意識し、環境理念や環境に対する基本方針を定めています。

エフテック環境理念、エフテック基本方針

エフテック環境理念

当社は、自動車産業の環境トップランナーを目指し、従業員一人一人が地球環境問題に対する正しい認識を深め、企業活動の全域において継続的な環境保全活動を積極的に励行することにより、低炭素で自然豊かな未来を築く事に全力を尽くします。

エフテック基本方針

1. 持続可能な社会を形成するために当社の足廻り自動車部品の製造に関わる全ての事業活動において環境負荷低減と生物多様性の保全に関して取り組みます。
 - 製品のライフサイクル全体で環境負荷低減に取り組みます。
 - 開発領域では製品の軽量化によって走行時のCO₂を削減します。
 - 全ての事業活動において省資源、省エネルギーを実施します。
 - 全ての事業活動において廃却物のゼロエミッションを継続します。
 - 生物多様性の保全へと繋がる社会貢献活動に取り組みます。
2. 環境・エネルギーに関する法令、及びそのほか同意する要求事項を遵守します。
3. 環境・エネルギーマネジメントシステムの継続的改善と汚染の予防に努めます。
4. 環境・エネルギー目標を設置し、定期的に見直しを行います。
5. 環境・エネルギー目標を達成するための情報並びに必要な資源を利用できることを確実にします。
6. 省エネルギー活動及び環境保全活動を通じて環境意識の高い人づくりを行います。
7. エネルギー効率の良い製品、設備の導入やサービスの活用に努めます。
8. 事業活動に関する環境情報は適切に開示します。

環境マネジメント体制の充実

当社グループは、事業活動が環境に及ぼす影響を最小限に抑えるため、環境に関する国際規格であるISO14001の認証を進めています。国内拠点では1998年からISO14001の認証取得に向けて取り組みを開始し、開発・生産拠点の認証取得が完了しています。海外拠点では全生産拠点の認証取得を目指し、直近では2012年に設立したメキシコの生産拠点が2017年5月に認証登録が完了



しています。未取得の拠点 (FEGQ、FTI) は中長期計画を立て、認証取得を進めています。

また当社グループでは、2008年に環境グローバル展開がスタートして以降、2013年にエネルギーの国際規格であるISO50001の認証取得を皮切りに2015年からグループ共通のGlobal F-tech Energy Management Systemを構築し、海外拠点に対してISO50001の展開を進めています。



TCFD 指標と目標

長期目標

エフテックでは、持続可能な社会の実現に向けて、「CO₂排出削減」、「大気・水・土壌などの環境保全」、「省資源・水や廃棄物の削減」、「化学物質管理」、「環境に配慮した製

品開発」及び「生物多様性の保全」を重要な環境課題と捉え、環境負荷物質削減に取り組んでいます。

中でも「CO₂排出削減」、「水資源の削減」及び「廃棄物の削減」については、2017年に「2030年グローバル環境目標」として定量的な目標設定をしています。

2050年グローバル環境目標 (新目標)

2050年カーボンニュートラルの実現

- 2050年度年CO₂排出総量 … ▲100%削減
基準年度：2017

※CO₂排出 対象：工場内で使用されたエネルギー
対象外：物流、社用車、溶接CO₂ガス

※温室効果ガス排出、水資源使用と整合性を高めるため、売上高にはグループ間取引分を含めています。

2030年グローバル環境目標 ※2022年度見直し事項

- CO₂排出原単位 …… ▲18%改善
基準年：2017年度比 指標：売上高
- 水使用原単位 …… ▲14%改善
基準年：2017年度比 指標：売上高
- 廃棄物原単位 …… ▲13%改善
基準年：2017年度比 指標：売上高

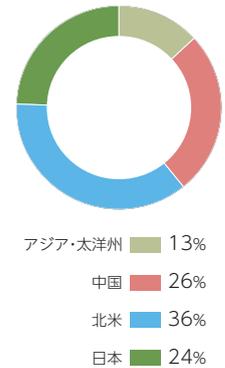
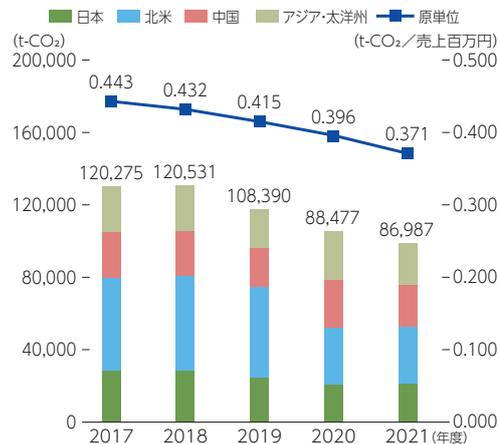
指標と目標

2030年グローバル環境目標 推進実績

CO₂排出量の実績

目標〈2017年度比CO₂排出原単位5.6%削減〉 → 実績〈同16.3%削減〉と目標達成となりました。

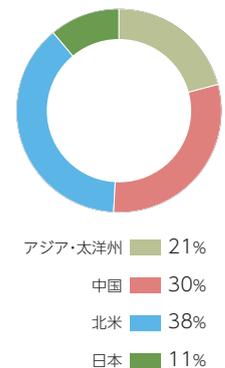
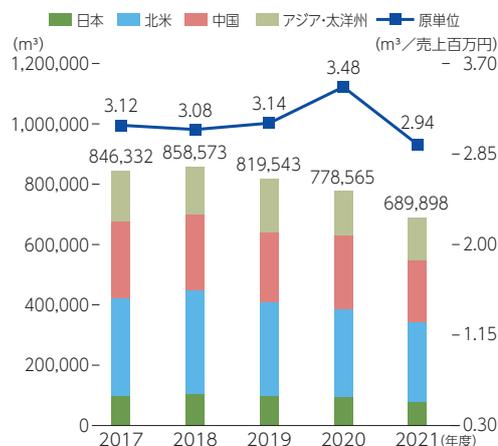
コロナ禍や半導体不足による生産調整の影響を受け多くの拠点で生産が減少しました。CO₂排出量では、昨年度比で1.7% (1,490t-CO₂) 減少しています。2021年度の地域別のCO₂排出量では、中国拠点が一時期シャットダウンの影響によりCO₂量は前年比で13.5%減少しましたが、中国拠点を除く地域では増加に転じております。売上では全体で約5%増加しており、2020年度と比べると生産に回復の兆しが見えてきました。各拠点によるCO₂排出削減施策の推進効果により中国や北米拠点を中心にエネルギー使用効率が改善されています。



水資源使用量の実績

目標〈2017年度比水使用原単位4.4%削減〉 → 実績〈同5.6%削減〉と目標達成となりました。

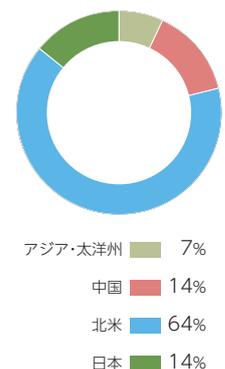
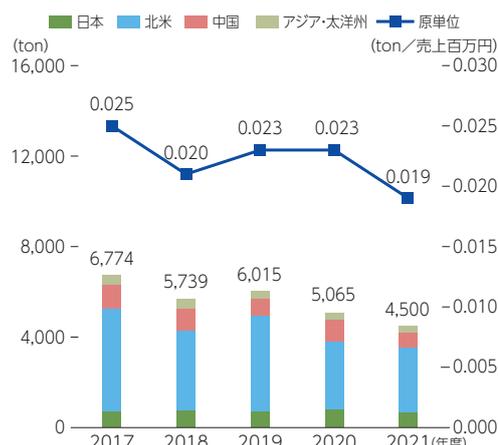
水使用量は、昨年度比で11.4% (88,667m³) 減少しており、2倍以上の水使用量の削減となりました。当社グループの水使用量は大半が塗装工程における製品の洗浄や表面処理、電着塗装及び蒸気として使用しており、塗装工程の水質維持や品質への悪影響を予防するため水依存度が高い拠点が多い状況です。2020年度実績の悪化により、2021年度は当社グループでの水使用量の削減の重点管理を実施しました。水使用量の削減が進んでいる拠点との比較を行い、有効施策を共有しました。



廃棄物排出量の実績

目標〈2017年度比廃棄物排出原単位4%削減〉 → 実績〈同22.6%削減〉と目標達成となりました。

廃棄物排出量は昨年度比で11.2% (565t) 減少しております。地域別の実績では、中国・アジア・太平洋・日本拠点では特に、前年比で約20%以上の廃棄物の排出量が減少となりました。中国拠点ではコンプレッサーの排熱を利用した排水処理汚泥の効率的な乾燥施策の実施、日本拠点ではこれまで廃棄物として排出していた非鉄金属ゴミの分別を工夫することにより有価物として処理が進められたことにより排出量の削減が進みました。引き続きグループ一体となり有効施策の共有を図り、廃棄物排出量の削減に努めます。



第14次中期計画

2021年度は第14次中期計画の2年目です。2020年度はコロナ禍の影響を大きく受け、中長期計画の一部を見直しました。

2021年度は、コロナ禍に伴う一部拠点でのシャットダウンや生産数減少、半導体不足による生産調整が行われ、大きな影響を受けましたが、2020年度比ではグループ全体で回復傾向がみられました。その結果、環境指標の原単位については、CO₂、水及び廃棄物の各項目で目標を達成しました。

前年度目標未達であった水資源使用量原単位については、2021年度において水資源の使用状況調査を行い、塗装工程の水の使用状況や管理水準の把握、メンテナンス回

数の拠点比較を実施しました。グループ内でも設備規模など一部異なるため、管理方法においては拠点差があることが分かりました。また、一部の拠点で実施している水の再利用状況について調査を行い、再利用水の活用に適した工程調査やコスト、品質への影響を考慮しながら、水使用量の削減について継続して検証を進めます。

生物多様性の取り組みについては、参加人数の強化を企画しましたが、コロナ禍でもあり、従来の社会貢献活動が実施できなかった拠点もありました。

2021年度の地域ごとに開催した世界環境会議では、コロナ禍で活動方法を工夫する報告が多く見受けられました。

環境領域第14次中期計画(2020~2022) 2年目結果(主要計画)*

対象:エフテックグループ(国内6拠点、海外14拠点)

領域	展開内容	時期			
			2020年度	2021年度	2022年度
生産	温室効果ガス 排出原単位の低減	計画	[4.2%改善(17年比)]	[5.6%改善(17年比)]	[7.0%改善(17年比)]
		実績	10.6%改善	16.3%改善	
		評価	○	○	
	水質源使用量原単位の低減	計画	[3.3%改善(17年比)]	[4.4%改善(17年比)]	[5.5%改善(17年比)]
		実績	11.5%悪化	5.6%改善	
		評価	×	○	
	廃棄物排出量原単位の低減	計画	[3%改善(17年比)]	[4%改善(17年比)]	[5%改善(17年比)]
		実績	8.0%改善	22.6%改善	
		評価	○	○	
マネジメント ／企業活動	ISO50001 グループ展開	計画	[設備管理台帳の整備 / 台帳に基づく省エネ提案]		
		実績	台帳作成	台帳整備	
		評価	○	○	
	グローバル環境管理 システムの構築／運用	計画	[着手]	[構築完了]	[運用]
		実績	マニュアル整備完了	システム構築完了	
		評価	○	○	
	生物多様性の取り組み強化	計画	[新ガイドライン運用開始]	[参加人数強化(20%以上)]	[参加人数強化(25%以上)]
		実績	ガイドライン展開	参加人数強化 遅れ	
		評価	○	×	

○:目標達成 ×:目標未達成

*「開発/エンジニアリング」の目標については機密情報の観点から公表を控えています。

指標と目標

2021年度 環境・エネルギー計画(国内)

2021年度は多くの管理項目において目標を達成することができました。ただし、CO₂排出量の低減に関しては、CO₂の排出原単位目標は達成することができませんでした。

主な要因は、

- ・コロナ禍の影響や半導体不足により生産調整が入り、生産数が大幅に減少したことによってエネルギー使用効率が低下したこと

・コロナ感染を防止するための常時換気の実施によって空調効率が大きく低下したこと

・久喜や芳賀の拠点での試験設備の増設によってエネルギー需要が増加したこと です。

これまで生産数に応じたエネルギー使用量での効率評価を行ってきましたが、試験設備は同様の評価はできず、適切な評価方法について検討を進めています。

当社グループは目標実現に向けて、積極的に取り組んでいます。

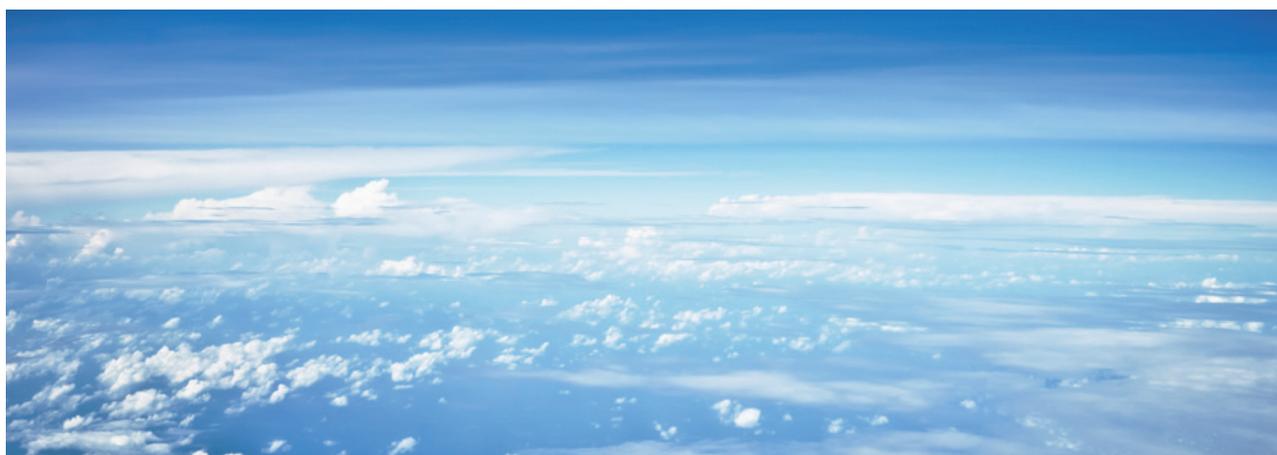
2021年度 環境・エネルギー計画の結果*

対象:エフテック国内3事業所(久喜・亀山・芳賀事業所)

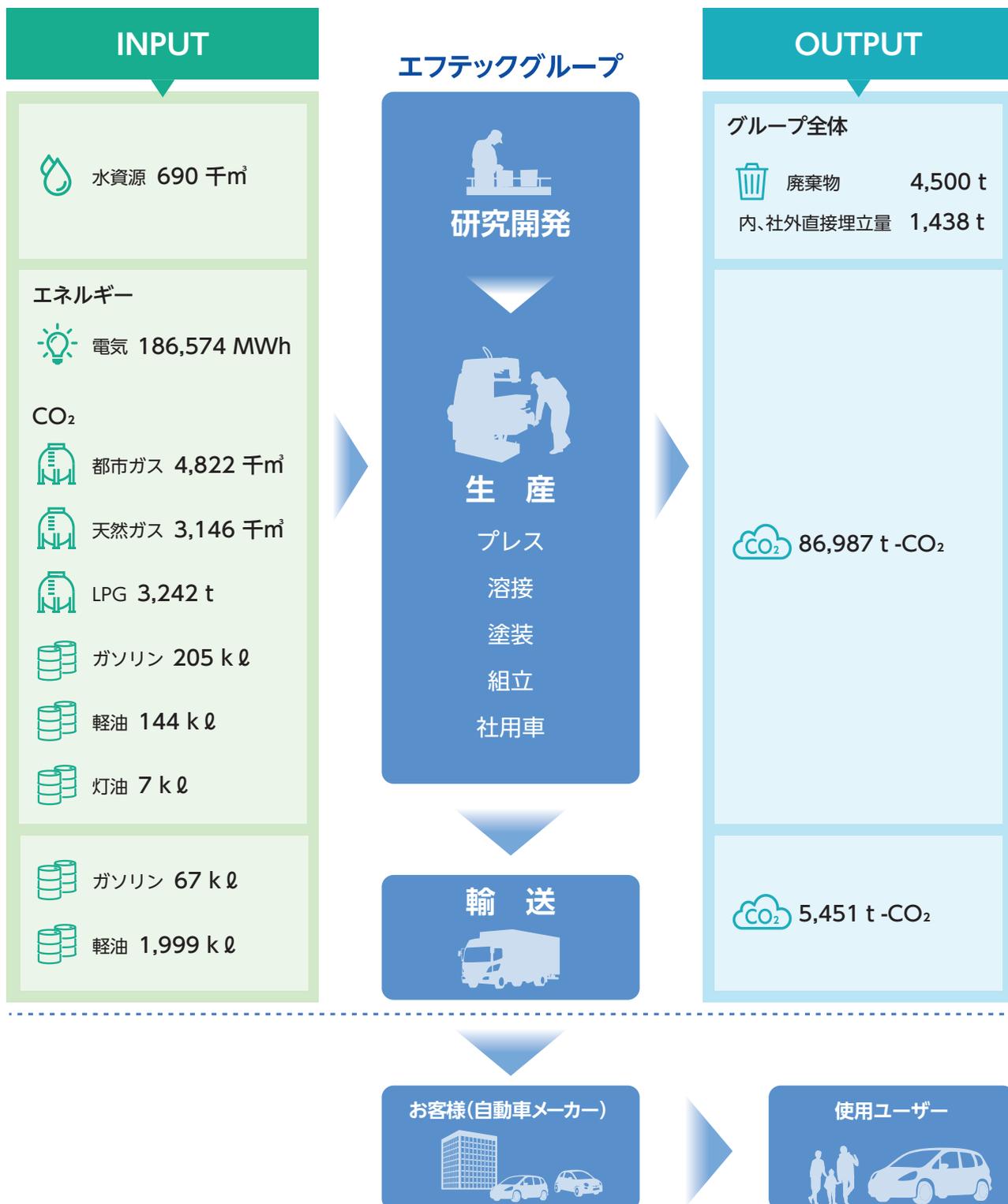
管理項目	目標	管理水準	実績(通期見込み)	評価
CO ₂ 排出量の低減	CO ₂ 排出原単位	全領域(久喜・亀山・芳賀) 2019年度比 2%改善 98Point	112.4Point 12.4%悪化	×
	施策によるCO ₂ の削減	施策削減量(久喜・亀山・芳賀) 104.3t-CO₂以上	332t-CO ₂	○
エネルギー マネジメントの進化	ISO50001海外展開	設備管理台帳の整備、 省エネ提案	設備管理台帳の 整備完了	○
	グローバル環境管理 システムの構築/運用	環境管理システムの構築	システムの構築完了 2022年 システム運用を計画	○
社会的責任の遂行	地域社会への貢献活動	参加率25%以上/ 各サイト正規従業員(延べ人数):199名	参加人数 355名	○

○:目標達成 ×:目標未達成

*[開発/エンジニアリング]の目標については機密情報の観点から公表を控えています。



マテリアルフロー(2021年度実績)



- OUTPUTのCO₂排出量は、INPUTのエネルギー使用量にCO₂換算係数を乗じて算出しています。
- CO₂の算出方法は、経済産業省・環境省の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」とWRI/WBCSD「The Greenhouse Gas Protocol」を参考にしています。
- 国内電力は電力会社ごとの最新の係数をもとに算出しています。
- 対象期間は、2021年4月～2022年3月のデータです。

指標と目標

2021年度 エフテック環境会計

エフテックでは、これまでCSRレポートとなる以前の環境報告書発行時から、環境会計の準備を進めてきました。環境保全への投資額や費用額を正確に認識・測定して集計・分析を行い、その投資や費用に対する効果を知ること、取り組みのいっそうの改善を図るとともに、ステーク

ホルダーへの説明責任を果たすうえで重要であると考えています。

今後、海外グループ会社についても、可能な範囲で集計に含めるべく検討を進めています。

環境保全コスト

金額(千円)

分類	主な取り組みの内容	2019年度	2020年度	2021年度
事業エリア内コスト	①公害防止コスト	15,291	14,781	19,486
	②地球環境保全コスト	110,410	20,317	24,890
	③資源循環コスト	18,061	18,811	12,858
	計	143,762	53,909	57,234
管理活動コスト	ISO認証費用、CSR報告書費用、環境測定費用 等	9,003	6,536	7,268
研究開発コスト	環境負荷低減のための研究開発	1,090,000	856,000	731,000
社会活動コスト	環境保全活動への参加、寄付、支援	2,151	1,920	1,795
合 計		1,244,917	918,365	797,297

環境保全対策に伴う経済効果

金額(千円)

分類	効果の内容	2019年度	2020年度	2021年度
収益	有価物による事業収入	423,750	431,949	688,824
費用節減	省エネ活動に伴う費用節減	14,924	19,230	15,953
合 計		438,674	451,180	704,778

環境保全効果

分類	環境パフォーマンス指標	単位	2019年度 使用量	2020年度 使用量	2021年度 使用量	2021年度 施策削減量
事業活動に投入する資源に関する 環境保全効果	総エネルギー量	GJ	254,067	231,264	225,165	8,997
	電力	GJ	194,906	176,067	172,142	8,870
	都市ガス	GJ	45,019	42,670	41,258	127
	LPG	GJ	14,082	12,497	11,696	0
	軽油	GJ	60	30	69	0
事業活動から排出する環境負荷及び 廃棄物に関する環境保全効果	水資源	m ³	75,870	76,858	61,629	0
	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	12,349	11,233	9,590	342
	社内炭素価値	千円/t-CO ₂	336	49	65	-
	特定の化学物質排出量	t	0.9	0.9	1.7	0
	廃棄物等排出量	t	414	444	404	0
輸送に伴う環境負荷物質排出量	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2,208	1,680	1,567	173

※算出にあたり日本の地球温暖化対策の推進に関する法律に基づくGHG排出量算定・報告・公表制度の発熱量を使用しています。
※当社の環境会計は環境省の「環境会計ガイドライン」に準じて算出され、日本国内の活動分のみを示しています。

サプライチェーンマネジメント

購買方針

購買部門は当社の「行動指針」に則り、公平・公正かつ透明性の高い取引を行うとともに、お取引先との共存・共栄を目指した取り組みを推進していきます。

1. 最適コスト体質の実現
2. QCDで魅力ある商品(製品)の調達
3. 物流効率の追求

取引先とのパートナーシップ

お取引先とは、共により良い製品作りをする良きパートナーとして相互理解に努め、対等な立場で相互の知恵と工夫を駆使し共存・共栄の考えで信頼関係を構築していきます。

グリーン購買

当社グループでは、環境に配慮した部品・材料や製品を優先して購入するグリーン購買の基本的な考えを「エフテックグリーン購買ガイドライン」として定めています。お取引先には下記事項の取り組みをお願いしています。

- ・環境マネジメントシステムの構築
- ・環境関連法令の遵守
- ・製品含有化学物質管理の実施
- ・温室効果ガス排出量の把握と削減

購買方針説明会

例年、会場を設けて購買方針説明会を開催していましたが、コロナ禍における来場者及び当社社員への感染防止を考慮し、本年度も開催を見送り情報配信のみとさせていただきます。

2022年3月にお取引先80社に対し、購買方針説明会資料及び、当社の環境への取り組み事例紹介を配信し、環境取り組み状況調査の協力をお願いいたしました。

環境取り組み状況調査

1. 環境負荷物質調査
 - ①各エネルギー使用量
 - ②水資源使用量
2. CO₂削減目標の設定と達成状況
3. 生物多様性活動状況
4. 省エネ、水使用、廃棄物排出について改善施策の共有

バリューチェーンでの温室効果ガス排出量の把握

環境保全効果



環境改善事例

1. Web MTG活用により、移動に伴う環境負荷の低減を実施。県内移動も可能な限り控え、Webを活用
2. 輸出入部品、設備の梱包仕様及び輸送経路を改善し、積載効率の向上によるコンテナ本数の削減、輸送距離の削減を実施し、CO₂削減。

製品含有化学物質管理

当社グループでは、製品含有化学物質規制に対し、各拠点で管理体制を構築しIMDS^{*}調査を実施しています。人や環境への有害性があり、法律によって使用が禁止もしくは規制されている物質を「エフテック製品化学物質管理基準書」に定め、これらの物質の使用を厳しく禁じています。またグリーン購買活動を通じて、お取引先の理解も得ながら対象物質の排除に取り組み、これらの物質を含まない製品をお客様に提供しています。

*IMDS : International Material Data System (自動車業界向け材料データベース)

責任ある鉱物調達

紛争地域において産出された鉱物を購入することは、暴力行為を行う武装勢力への資金供与につながることや、児童労働、強制労働等の人権侵害を助長するとの国際的な懸念があります。そこで紛争のみならず、人権侵害、環境破壊などの不正にかかわる鉱物調達の調査を行っていき、紛争地域ならびに高リスク地域原産の鉱物を使用していない製品購入に努めます。RMI^{**1}が毎年発行している国際的にフォーマット化されたCMRT^{**2}(最新版)を使用して「責任ある鉱物調達」の取り組みを行っていきます。

*1 RMI : Responsible Minerals Initiative (紛争鉱物フリー推進イニシアティブ)

*2 CMRT : Conflict Minerals Reporting Template (紛争鉱物調査帳票)

TOPICS

2021年度 地域環境会議の開催

当社グループでは、2009年から世界のグループ主要各社が集まって、「エフテックグループ世界環境会議」を開催してきました。

2021年度もコロナ禍の影響で、従来のような各拠点から一斉に集い会議を開催することができませんでしたので、世界環境会議に代わる会議として、北米・中国・アジアの地域ごとに地域環境会議をWebで開催しました。

環境会議では、各拠点の取り組み内容や困りごとについて他の参加拠点との意見交換を中心に実施したため、従来の世界環境会議とは異なり、地域毎や同じ国同士の対応状況など限られた時間の中で積極的な意見交換がされました。

今回は国内外の14拠点から合計60件の新たな環境施策が集まり、2020年度施策削減効果は約8,100万円になりました。累計では約5.5億円の改善実績となる環境施策を共有し、グループ全体での環境負荷低減及び製造原価低減に貢献することができました。今会議で事務局からの主な発信事項は以下の2点でした。

1 2050年カーボンニュートラル達成に向けた目標見直し

エフテックグループの環境面の課題認識において、大きな変更がありました。ステークホルダーからの要求事項により、「2050年カーボンニュートラルの達成」が取り組むべき重要課題となりました。

2021年にエフテックでは取締役会で「2050年カーボンニュートラルの達成に向けて取り組む」ことを決めたため、

各拠点に対し、2050年までにCO₂の排出量を実質ゼロにするため、これまでのCO₂原単位管理に加えて、CO₂の排出総量の削減を年率3%で進めていくことを展開しました。具体的な施策については、今後社長をトップとしたプロジェクト発足により検討を進めていくことが共有されました。

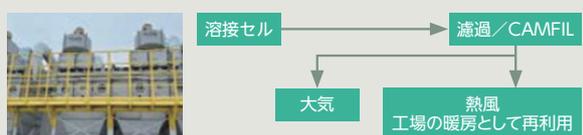
2 水リスクへの取り組み強化

干ばつ、洪水の増加、水質汚染、利用可能水量の制限等の水リスクは、企業にとって無視できない経営課題の一つとして認識され始めており、これまで世界環境会議の主テーマとして水使用量削減施策を重点評価していくことを共有してきました。しかしながら当社グループにおける水の使用は、生産活動や製品品質に密接に関連しており、容易に減らすことが難しくなってきました。2021年度では、拠点の水資源の使用状況の比較を行い、水使用量の監視点の状況や再利用水の利用状況を調査した結果を共有しました。

更なる水の使用量を低減していくには、まず現状使用している使用量の見える化が必要ですが、工程の使用量が把握できていない拠点もあり、少なくとも塗装工程全体で水の使用が把握できるよう依頼しました。また水の再利用を行っている拠点は13の生産拠点中3拠点のみとなりますが、再利用水について品質影響を考慮してどのように利活用していくかが、削減のカギとなるため、有効的な利用について引き続き検証を進めていきます。

2021年度は、領域別に他拠点の模範となる優秀施策を決定

省エネ優良施策 DYNA - MIG…天然ガス削減プロジェクト



溶接セル → 濾過/CAMFIL → 大気 / 熱風工場の暖房として再利用

CAMFIL 浄化設備の増設により、溶接エリア熱排気を濾過し、再利用による都市ガスの削減

水資源優良施策 FMTL…第3水洗/純水スプレー水洗使用水の自動オン・オフ管理



バルブ自動On-Off管理

部品センサー設置により生産状況に合わせて塗装水洗工程の使用水を自動On/Off管理による水使用量の削減

廃棄物優良施策 FTW…排熱再利用による汚泥乾燥による廃棄物減量



コンプレッサー廃熱による汚泥乾燥化を向上させ、汚泥排出量を約35%削減

CSR優良施策 FPMX…家族の環境意識向上



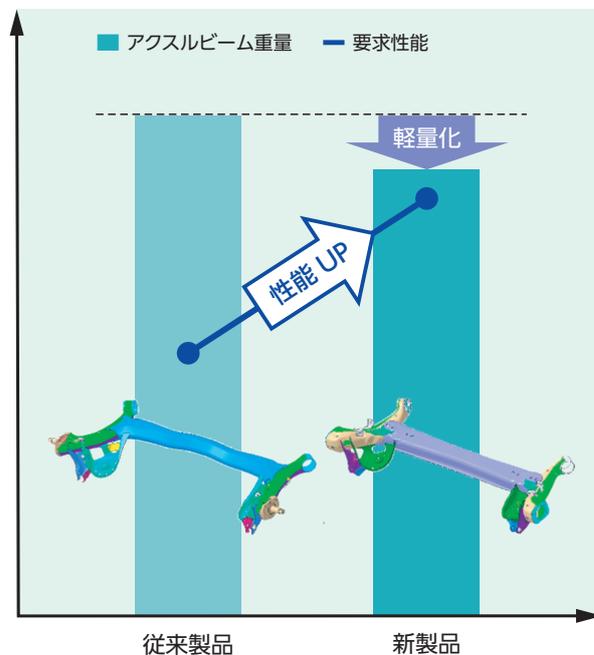
コロナ禍における社会貢献活動を工夫し、家族に対して、環境配慮活動を実施

環境にやさしい開発設計をモットーに、 独自開発技術の活用による最適製品設計への飽くなき追求

製品の更なる軽量化による環境貢献

昨今、環境影響やCO₂排出量削減要求に対応するため、自動車業界においても、EV化をはじめとする様々な変化、取り組みが加速しており、環境貢献を成し遂げるうえで重要な取り組みの一つとして軽量化があります。車の重量増加は燃費悪化、CO₂排出量の増加にも関係してきます。近年、EV化が進む中、重量のかさむバッテリーを搭載していくことから、従来のガソリン車よりも車両全体の重量は増加傾向にあり、航続距離向上のためにもより一層の軽量化対応が求められています。我々の製品に関しても、軽量化ニーズは年々高まっており、継続的な対応が必要となっています。

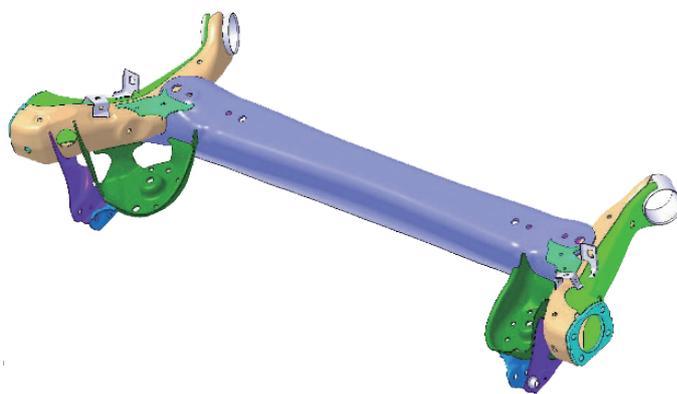
そのため、当社では生産技術力を進化・発展させながら、独自に発展させたシミュレーション技術を最大限活用することで、軽量かつ高強度・高剛性の製品を生み出すことだけでなく、環境問題も意識して製品開発を進めています。



シミュレーション技術を活用した 製品開発(アクスルビームのケース)

直近のアクスルビーム開発においては、自動車1台の機能追加や拡充、安全性能向上などにより、車両重量は増加傾向で、部品への負荷も増えてきています。

アクスルビームは車の走行性能への関連性が高い部品の一つとなりますが、独自開発の最適化シミュレーション技術を最大限活用し、性能をつかさどる重要な部位の抽出から、無駄のない効率的な製品骨格を見出すことで、性能向上要求の達成、従来比約9%の軽量化を実現する製品開発に成功しています。当社は「環境にやさしい開発設計」を掲げ、様々なシミュレーション技術の活用と更なるCAE評価技術向上から試作レスへと発展させることにより、部品製作時に排出されるCO₂を削減し、更なる環境負荷の低減が可能になります。





自動車業界の大変革期に、 環境負荷低減に対応する最適な部品設計 を目指し続けていきたい

開発本部 商品開発部 設計1課
白滝 司



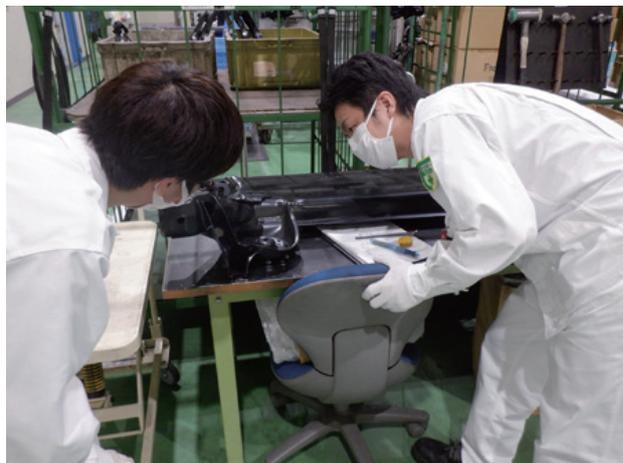
EV化に対応する軽量化への限りなき追求

私は大学時代工学系専攻の学生として、将来はモノの開発・設計に携わりたいと思っていました。学生時代は、明確に自動車部品のフィールドと決めてはいなかったものの、日本の基幹産業である自動車業界で働き始め、この業界と出会えたこと、そして「自動車業界の100年に一度の大変革期」と言われる今、エフテックで開発・設計に従事できている幸運を感じつつ、日々仕事を行っています。開発本部に配属後、10年以上にわたりアクスルビーム担当設計者として、日々、自動車の走る・曲がる・止まるをつかさどる、この足廻り部品の操安性や乗り心地をいかにしたら高められるかを突き詰めて考えてきました。EV化の波が押し寄せる今、自動車の製造及び走行にかかわる環境への影響が社会で広く認知され、更なる軽量化や高剛性仕様の構築が求められております。特に軽量化は、車の航続距離を伸ばすためには必要不可欠であり、CO₂排出削減などの環境影響を考慮した軽量化の限りなき追求は、私たち設計者に課せられた時代の要請なのだと思います。

エフテックの技術力と培ってきた知識や 経験のシナジーによる進化と成長

私は製品開発・設計の過程で、新たな発見だけでなく様々な大きな課題に直面した時、強く実感することがあります。それは、私たちが設計する部品はエフテックが築き上げてきた技術力やノウハウだけでなく、社員一人ひとりの経験と繋がりにしでは作ることができなかつたということです。そして、その蓄積の上に、我々が関係部門と一致団結して創意工夫を積み上げることで、より高付加価値な製品に進化していきます。この実感こそが、開発・設計業務に携わる私のやりがいとなり、更なる追求に欠かせない原動力となっていると感じています。

今後も、エフテックで培った知識や経験、コミュニティを最大限に活かしながら、エフテックのチャレンジ精神のもと、環境負荷低減に貢献できる、より良い製品設計を追い求めつつ、会社と共に更なる進化と成長を遂げていきたいと決意を新たにしています。





久喜事業所 (埼玉県久喜市)

令和4年4月8日 文部科学大臣表彰「創意工夫功労者賞」受賞
自動車部品向け超精密加工プレス金型の仕様改善

FUT-1プレス機では、板厚12mmの自動車部品の精密塑性加工を行っています。金型を何度も改良している中で、今回はサイジング工程でスクラップを裁断するカッター部分に着目しました。

カッターの耐久性に問題があるため交換頻度が高く、その交換作業にも多くの工数とコストが発生していました。そこで、スクラップカッターの仕様を一体式だったものから、チップ式を考案、図面化し変更に至りました(図1)。製造メンバーが、何種類ものの中から最適なチップ材質を選定し、何度もトライを繰り返したどり着いた仕様です。

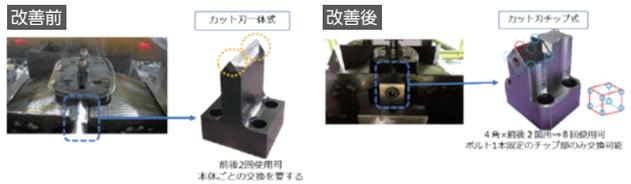
改善前後の比較では、購入コスト78%削減、使用限界280%向上、使用刃面400%向上、交換工数60%削減となり、総合で95%のコスト削減となりました。

そして本業績により、令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰にて「創意工夫功労者賞」を受賞しました。今回の

改善ノウハウを活かし、今後の技術力底上げに繋げていきます。



(図1)改善前後仕様比較



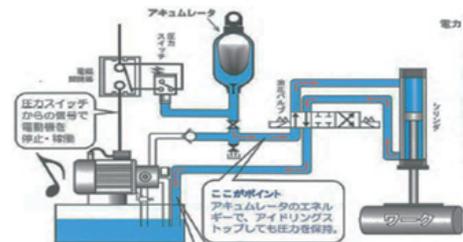
亀山事業所 (三重県亀山市)

350t 油圧ポンプの間欠運転

350tプレス機では、レバラー設備本体とムービングボルスターのクランプシリンダーの油圧をレバラー側のポンプにて駆動しています。レバラー設備本体の使用率は低いですが、ムービングボルスターのクランプは常時運転しています。そこで常時運転しているムービングボルスタークランプ側にアキュムレータと呼ばれる油圧保持装置を取り付け、油圧ポンプを間欠運転できるようにしました。

それにより今まで8時間油圧ポンプが常時運転していましたが、間欠運転により7時間停止することができました。その結果、12,688kwhの電力(CO₂換算4.8t-CO₂)を年間で削減することができました。

アキュムレータ装置の内部圧力が下限値に達するまでMBクランプの圧力を保持します。8時間中7時間停止できました



プレス機のMBクランプシステムにアキュムレータを取り付け、油圧ポンプを間欠運転することで8時間稼働→1時間稼働へ改善

芳賀テクニカルセンター (栃木県芳賀郡芳賀町)

環境負荷低減及び省エネに向けた取り組み

芳賀テクニカルセンターでは、各部門が協力しあい、最適最良な製品を目指し、環境負荷低減及び、省エネに取り組んでいます。

設計段階では、最適化ツールを活用することで、剛性・強度/耐久・衝突性能等の要求性能を確保し、開発部品の最軽量化を目指して設計を行っています。現行のグローバルモデルであるRRSUBFRAMEの重量14.25kgに対し、次期提案モデルでは1.31kgの軽量化を達成しました。これにより燃費が向上し、CO₂削減が見込まれ、グローバル規模の環境改善に貢献することができそうです。

また、製品評価段階では、性能評価をする際の設備につい

ても省エネを意識した見直しを行いました。今までの油圧式加振機は、常時油圧を発生させるためにモーターを稼働させ続ける必要があり、月平均で電力量約5,000kwhを消費していました。そこで、作動時のみ電力を消費する電動式加振機に変更したことで、月平均の消費電力が約518kwhと従来の10分の1程度になり、大幅な省エネ効果が得られました。今後も環境、省エネを考慮した開発運営を行っていきます。



電動式加振機

フクダエンジニアリング株式会社 (FEG / 埼玉県加須市)

全従業員を対象とした危険体感研修の実施

FEGでは、労働災害撲滅のため2021年12月から、事務職、製造職を問わず、全従業員を危険体感研修に参加させています。

この研修は栃木県の大和鋼管工業様で開催され、現場作業で起こりやすい危険を疑似体験することにより、危険への意識向上による労働災害の未然防止を目的としています。内容は、「回転体巻き込まれ体感」、「重量物運搬による腰痛危険体感」、「玉掛け指挟まれ体感」など、FEGの工場でも起

こりうる身近なものが多く、危険を再認識することができました。

今後は、新入社員には受講を義務化し、3年に1回は全従業員が受講できるように計画しています。



株式会社九州エフテック (QFT / 熊本県山鹿市)

熊本県SDGs登録

九州エフテックは、熊本県が推進する熊本県SDGs登録制度に申請を行いました。登録には、SDGs登録申請書 (SDGs達成に向けた経営方針と目指す姿、環境・社会・経済の3側面の分野で重点的な取り組み及び指標) や50項目のSDGs達成に向けた取り組みチェックリストなどを提出し、厳正なる審査の結果、登録となりました。

2021年9月1日に、熊本日日新聞に社名が掲載され、同年10月29日には、新型コロナウイルスの感染予



防に配慮して、簡素化した交付式が、熊本県知事の参加のもと開催されました。これにより、県による登録企業のPR、県のホームページでの紹介、専用ロゴマークの活用、熊本県のPRを受けることができ、県内外の企業等とのビジネスマッチングが期待できます。

社内では、全従業員の名札に「私のSDGsは～」と、一人ひとりの活動内容をSDGsの17のゴール、169のターゲットをもとに記入し、意識付けを行っています。また重点取り組みの一つである、省人化を目的としたペダル組立の自動化も実現しました。今後もSDGsに貢献できる活動を行っています。



株式会社リテラ (埼玉県秩父郡小鹿野町)

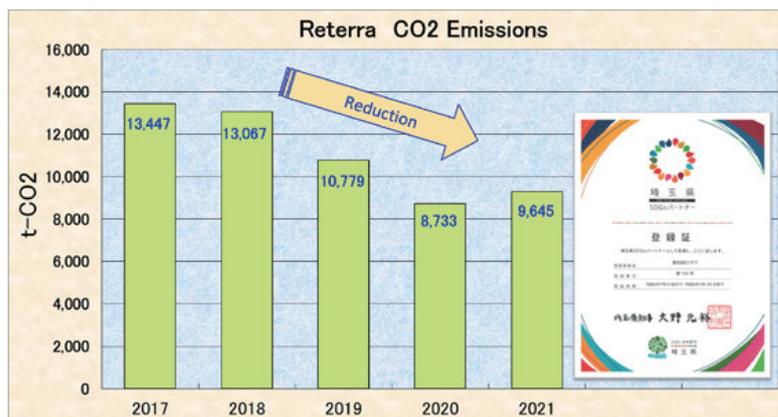
「環境SDGs」と「カーボンニュートラル」

リテラでは、今期の事業計画に「SDGs活動の社内浸透」を掲げ、従業員へ社内教育を行い、国内3工場では各取り組み事項を選定し活動しています。

埼玉県では、SDGs達成に向けた取り組みや「埼玉版SDGs」の推進を目的に、県と連携してSDGsを普及する企業・団体等を「埼玉県SDGsパートナー」として登録する制度を設けています。リテラの環境活動とも共有事項が多いことから、①[環境]CO₂排出量の削減 ②[社会]外国人技能実習制度の推進 ③[経済]高齢者雇用安定法の遵守の3側面を掲げ、埼玉県から推薦をいただき、2021年7月31日、「埼玉県SDGsパートナー」として登録されました。

SDGsの17のゴールに、リテラの環境活動に当てはめると12項目が該当します。その

中には、得意先様からの要求が多い「カーボンニュートラル(エネルギー削減)」の対応も含まれ、省エネプロジェクトでの活動を通じて、多種多様な省エネ施策を毎年実行しCO₂排出量の削減に努めています。





F&P America Mfg., Inc. (FPA / アメリカ オハイオ州)

奨学金の授与

FPAは2013年、オハイオ州トロイの高校を卒業する生徒を対象に奨学金制度「F & P America Engineering Scholarship」と「F & P America Business Scholarship」を創設しました。このプログラムは、トロイ高校とトロイクリスチャン高校に通う生徒を対象に、オハイオ州トロイでの商業と製造業を促進し、次世代を育てることで社会への還元を図るものです。応募資格は大きく分けて4つの条件があり、それを満たした者の中から、オハイオ州トロイ財団奨学金選考委

員会によって受賞者が決定されます。創設以降、毎年2~4人の地元の学生がこの奨学金を獲得しています。今年は、トロイ高校から2人、トロイクリスチャン高校から1人が奨学金を授与されました。



Anna Boezi (Troy HS)



Rylen Marsh (Troy HS)



Lucas Day (Troy Christian HS)

F&P Georgia, A division of F&P America Mfg., Inc. (FPG / アメリカ ジョージア州)

新型コロナウイルスの感染抑制・社内PCR検査の取り組み

アメリカが、新型コロナウイルスの感染第一波を迎えた2020年中頃、地域の医療機関による無料PCR検査が実施され、多くの従業員が、検査やその待ち時間で職場を離れる事態が生じました。そのため、FPGでは従業員の感染拡大予防策として、社内PCR検査エリアを設置しました。社内の検査エリアにて、検体を採取し、それを検査機関に持ち込み約24時間後に結果が出るシステムとなっています。現在も、体調が優れなかったり、自身の感染を心配する従業員が、職場で即座に検査を受けることができます。

アメリカでは、ワクチン接種率が停滞し、マスク着用やソーシャルディスタンス等も、日本に比べて十分に実施されていません。このような環境において、企業による従業員の健康維持促進は、企業活動を継続していくために大変重要です。ワクチン接種についても、希望者を集め社内でする実施することができます。まだまだ新型コロナウイルスの感染収束は難しいですが、社会環境の変化を注視しつつ、適切な対応策を講じていきます。



ワクチン接種

F.TECH R&D NORTH AMERICA INC. (RDNA / アメリカ オハイオ州)

サブフレーム・コントロールアーム試験でのISO17025:2017認証

RDNAは、ISO9001:2015及びIATF16949:2016の遠隔地支援認証に加えて、業界基準を満たした試験品質保証を得るために、2020年度からISO17025:2017認証に向けて積極的に取り組んできました。

そして2021年の監査にて、サブフレーム・コントロールアームを対象に、油圧加振機を使った耐久・静破壊試験とMTS 329試験機を使った多軸耐久試験において、認証を取得することができました。



公的に認められた研究所として、外部からの試験委託にも試験設備の運用が可能となり、事業の幅が広がりました。今後は、新興OEMなどとの将来的なビジネスにも繋げていき、認証維持に努めていきます。

F&P Mfg., Inc. (F&P / カナダ オンタリオ州)

メンテナンス費用・ディーゼル油の削減

F&Pは、メディアフィルターシステムを設置することで、清掃段階から汚泥を減らす取り組みを行っています。メディアフィルターシステム



は、5ミクロンまで粒子を除去することができます。これにより、汚泥タンクの洗浄頻度を減らすことが可能になり、年間\$15,000のメンテナンス費用の削減が期待できます。また、トラック輸送の便数を減らすため、プレス品の台車数

を増やしました。今期はメキシコ行きのトラックを12便減らし、15,902ℓのディーゼル油を削減しました。さらにFPA(アメリカ)行き16便、DM(カナダ)行きを20便減らし、2拠点で合計8,960ℓのディーゼル油を削減することができました。

引き続き、LED照明の導入を行い消費電力の削減に取り組んでいるほか、従業員から多くの環境提案を受け付け、環境部門より生物多様性委員会を立ち上げることになりました。これは来年度中に活動が開始される予定です。

DYNA-MIG, A Division of F&P Mfg., Inc. (DM / カナダ オンタリオ州)

フードドライブ活動の追加実施

DMでは、15年以上にわたり慈善団体「STRATFORD House of Blessing」の活動を支援してきました。この団体は、DMがあるオンタリオ州ストラットフォードとその周辺地域で40年近く地域貢献活動を行っています。多くの支援プログラムの中からDMは、フードドライブ活動^{*1}や募金活動に参加しています。

しかし、新型コロナウイルスの影響を受け、仕事や家を失った人々が急増したことにより、支援のニーズは前年の2倍になったとされました。感染ピーク時には、団体から地域全体に更なる支援が呼びかけられ、営業と新機種部門の従業員は、秋にフードドライブ活動を実施しました。この時44名の従業員が参加し、中には複数回参加した者もいます。目標は250ポンドの食品を集めることでしたが、それをはるかに上

回る974ポンドの食品を団体のフードバンク^{*2}に寄付することができ、2021年にフードバンクを利用した8,967人(うち子供2,795人)の力となることができました。



※1 家庭で余った食料品を集めて、フードバンクや慈善団体などに寄付する活動。
 ※2 品質に問題がないが、包装の傷みなどで流通できなくなった食品などの寄付を受け、生活困窮者などに配給する活動やその団体。

F&P MFG DE MEXICO S.A. DE CV. (FPMX / メキシコ グアナファト州)

家族の環境意識向上

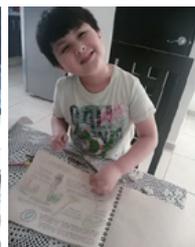


2021年も新型コロナウイルスの感染拡大が続き、企業活動だけでなく生活面でも制限が設けられました。毎年実施している、工場敷地内植樹活動は、30名の従業員が参加して実施することができました。しかし、この環境下では

ほかにできることはないかと考え、従業員の4~10歳の子供たちを対象に、環境をテーマとしたぬり絵を企画しました。これは水やエネルギーの節約、ゴミの分別等の大切さをぬり絵の作成を通して学んでもらうことを目的とし、35名の子供たちが参加してくれました。さらに、植物の栽培方法を学ぶ

きっかけ作りにと、家庭菜園キットを配布しました。

加えて、2020年8月に開始したボトルキャップキャンペーンは、従業員だけではなく、サプライヤーも巻き込んで活動しています。2021年5月には、175kgのキャップを回収し、リサイクル施設に送りました。その収益はがんに苦しむ子供たちの治療支援へ活用され、キャップは新たなプラスチック製品の原料として使用されます。



F.E.G. DE QUERETARO S.A. DE C.V. (FEGQ / メキシコ ケレタロ州)

貯水池の清掃活動

2022年3月、FEGQは環境保全と地域貢献活動の一環として、サンタカタリーナ地区にある貯水池の清掃を初めて行いました。この活動に従業員9名が参加し、一般ゴミやプラスチック、ガラスを含んだ廃棄物80kgを回収し、人間の活動が自然環境に与える影響について考える良い機会となりました。

今回、初めてこのような経験を得て、自然資源を適切に使用し、環境負荷を低減させていくことが重要だと、思いを新たにすることができました。

今後は、より多くの従業員が活動に参加できるよう、体制を整備しつつ、自分たちができることを継続、実践していきたいと考えています。





偉福科技工業(中山)有限公司 (FTZ / 中国 広東省)

安全への取り組み強化

FTZでは安全に関する取り組みを強化し、災害のない、安全な職場を目指しています。具体的な取り組みとして、①安全衛生委員会による定期巡視(1回/月) ②主催部門持ち回りの工場巡視(1回/月) ③設備安全信頼性検証 ④未然防止訓練・社内安全教育 ⑤他拠点の災害の見える化(掲示板の改良)を行いました。

直近では、社内の安全教育を見直し、日本の取り組みを参考に、危険予知訓練を行いました。過去に発生した実際の災害を題材にして教育事例を作成し、より受講者の印象に残りやすくなるよう工夫をしています。

このような取り組みが功を奏し、2017~2020年まで年間平均5.25件発生していた災害が、2021年には、創立以来の最少発生件数である1件になりました。今後もゼロ災害を目指して活動していきます。



偉福科技工業(武漢)有限公司 (FTW / 中国 湖北省)

ノーマル化防疫管理の推進 / 「重汚染天気」改善実績評価Bランク企業に合格

中国では、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染が拡大したため、上海市内はロックダウンとなり、多くの企業が操業停止となりました。武漢市内でも、無料のPCR検査場が設けられ、全市民へ48時間に一度の検査実施が呼びかけられました。そのような中FTWは、行政の防疫部門と連絡を取りながら検査会社に依頼をし、その指示のもと社内にPCR検査エリアを設置しました。便利な検査環境を提供するとともに、社内の感染リスクを洗い出し、従業員の安全確保を推進することができました。

また、湖北省生態環境庁は2021年度、「重汚染天気」の改善施策として重点企业に格付け評価を実施しました。対象企業がDランクからスタートし、改善内容によって格上げさ

れていきます。格付けがC・Dランクの場合、運用車両の制限と塗装ラインの停止減産を要求されてしまいます。湖北省内の対象企業6,523社が専門家審査を受け、最高ランクAに3社、Bに13社、業績先導企業に1社が選ばれる中、FTWはBランクに合格しました。これによりペナルティ措置を受けることなく、生産搬入を継続することができています。



偉福(広州) 汽車技術開発有限公司 (FRDCH / 中国 広東省)

事務所移転に伴う安全衛生リスク委員会の機能強化

FRDCHは2021年8月、組織変更とともに事務所の移転を行いました。新天地での職場安全を確保するため、2021年度に安全衛生リスク委員会組織を更新しました。



委員会の活動として、日常管理や安全教育の実施、オフィスビル管理会社主催の消防演習への参加などがあります。さらに、毎月の全体朝礼で災害速報を展開し、社

員の安全意識を高める活動も行っています。移転先でも以前と変わらずトラブル対応ができるよう、関係各所へ迅速に通報し、早急な措置が取れるような体制を整えています。





F-TECH PHILIPPINES MFG., INC. (FPMI / フィリピン ラグナ州)

社会貢献活動(献血)×福利厚生支援

2021年12月、新型コロナウイルスの影響により自粛していた献血活動を、感染症拡大後初めて行いました。安全衛生委員会は、「ニュー・ノーマルの献血活動」をテーマに、ラグナ州内のカランバ総合医療センターに協力していただきながら、社内の会議室に献血会場を設けて開催し、血液バッグ44個を集めることができました。

FPMIでは、会社経由で献血した血液量の30%を従業員とその家族が必要になったとき、献血先から無償で提供してもら

うことができます。これにより2022年1～6月まで、従業員11名がこの血液バッグ19個を利用し、社会貢献活動と福利厚生が融合した活動となっております。2022年も、夏季に活動を実施する予定です。

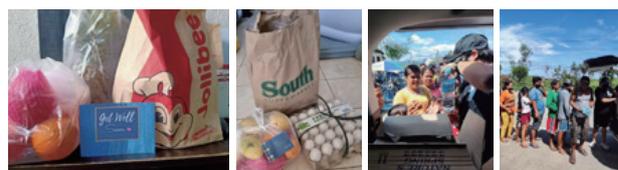


F.tech R & D Philippines Inc. (FRDP / フィリピン ラグナ州)

従業員への感染ケアサポートと台風被害への資金調達

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスは、FRDPにも影響を与え、従業員やその家族からも感染者が確認されました。この困難な状況の中、FRDPはウイルス感染した従業員19名へ、食料品などを詰め合わせた「ケアパック」を届けました。世界が感染症への取り組み方を模索するように、FRDPでも従業員にとって必要なサポートを実施していきます。また、従業員が募金活動を行い、地域社会の支援を行っています。2021年12月には、フィリピン中部のビサヤ地方を超大規模台風「オデット(ライ)」が襲い壊滅的な被害を受けました。

特にセブ州は大きな被害を受け、1か月以上電気が使えず、交通手段も途絶え、食料や水も不足する事態となりました。FRDPでは11,600ペソの資金を調達し、ミネラルウォーターを購入し台風被害を受けた家族に配りました。



F-TECH MFG. (THAILAND) LTD. (FMTL / タイ アユタヤ県)

新型コロナウイルス臨時医療施設の段ボールベッド製造に一役

新型コロナウイルスの感染拡大により、タイでは陽性患者が急速に増加し病床数が不足する事態となりました。FMTLは、アユタヤ県内のショッピングモールと資材会社主催の「Unity Fight Against Covid Project, Turning Paper into SCGP Field Beds」という活動に参加し、古紙を集め寄付を行いました。集まった古紙は全国のコロナ臨時医療施設に、段ボールベッドとして形を変え提供されます。また、Watsanamthong Mittrapap180学校の小学1年生

10人(男子生徒5人、女子生徒5人)に制服、靴、学用品を支給したほか、点字の教材に利用される古いカレンダーを視覚障害者団体へ、収入を得るためのクラフトアート作品の制作に充てられる宝くじのハズレ券を知的障害者団体へ、それぞれ寄付する活動を継続しています。



PT. F.TECH INDONESIA (FTI / インドネシア カラワン県)

IATF16949規格認証取得、SIMベストベンダーパフォーマンス賞受賞

FTIは、IATF16949の規格認証取得を目指してきました。しかし、新型コロナウイルスの影響に伴う大規模な行動制限などにより、思うように推進することができませんでした。2021年、取得に向けた活動を本格的に再開し、同年12月の審査を経て、2022年3月に、規格認証を取得することができました。

また、スズキ・インドモーター・モーター様のパーツセンターより、納期・品質に



優れた成績を残したことで、「ベストベンダーパフォーマンス賞」が授与されました。表彰の対象期間は2019年4月～2020年3月ですが、インドネシアでの新型コロナウイルスの変異株拡大により、遅れての受賞となりました。

依然として新規感染者数は多いものの、行動制限を緩和する動きが見られます。それに合わせ、地域への社会貢献活動も少しずつ再開していきたいと考えています。





発行：株式会社エフテック
〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地

問合せ：株式会社エフテック 管理本部 総務部
TEL. 0480-85-5211 FAX. 0480-87-1290 E-mail : webmaster@ftech.co.jp

2022年 10月発行 次回発行 2023年 10月予定

